



令和6年度 決算報告資料

総務部 企画財務課

医学・病院統括部 医学・病院企画課

センター病院管理部 経営企画課

1-1 決算総括(法人全体)

- 令和5年度決算における約21億円の赤字から、約6億円の改善
- 大学部門は、運営交付金及び外部資金の減等による影響と物価高騰等の影響により、前年度比7億円の悪化
- 附属2病院は、患者数等の経営指標が前年度を大きく上回り、前年度比13億円の改善
- 当期総損失約15億円は、地方独立行政法人会計制度に則り、「積立金」により損失処理

- ・経常費用 **919.6億円** (対前年度+32.4億円)
高額医療品使用量の増や手術件数等の増による診療経費の増
- ・経常収益 **904.3億円** (対前年度+38.5億円)
患者数等の増加による診療収益の増
- ・経常損失 **▲15.2億円** (対前年度+6.1億円)
- ・当期純損失 **▲15.9億円** (対前年度▲82.3億円)
R5：会計制度変更に伴う臨時利益の発生(臨時利益89.0億円)
- ・目的積立金取崩 **0.5億円** (PL費用相当分/取崩合計7.3億円)
- ・当期総損失 **▲15.4億円** (対前年度▲82.1億円)

1-2 決算総括(セグメント別)

※経常損益の増減を表示します。

<大学> ▲2.0億円(前年度比:▲7.0億円)

○運営交付金の削減や外部資金獲得減の影響があったほか、横浜市人事委員会勧告に準じた給与改定、定期昇給等による人件費増、物価高騰等の影響により対前年度比7億円の収支悪化となり赤字決算となった。

<附属病院> ▲2.5億円(前年度比+2.1億円)

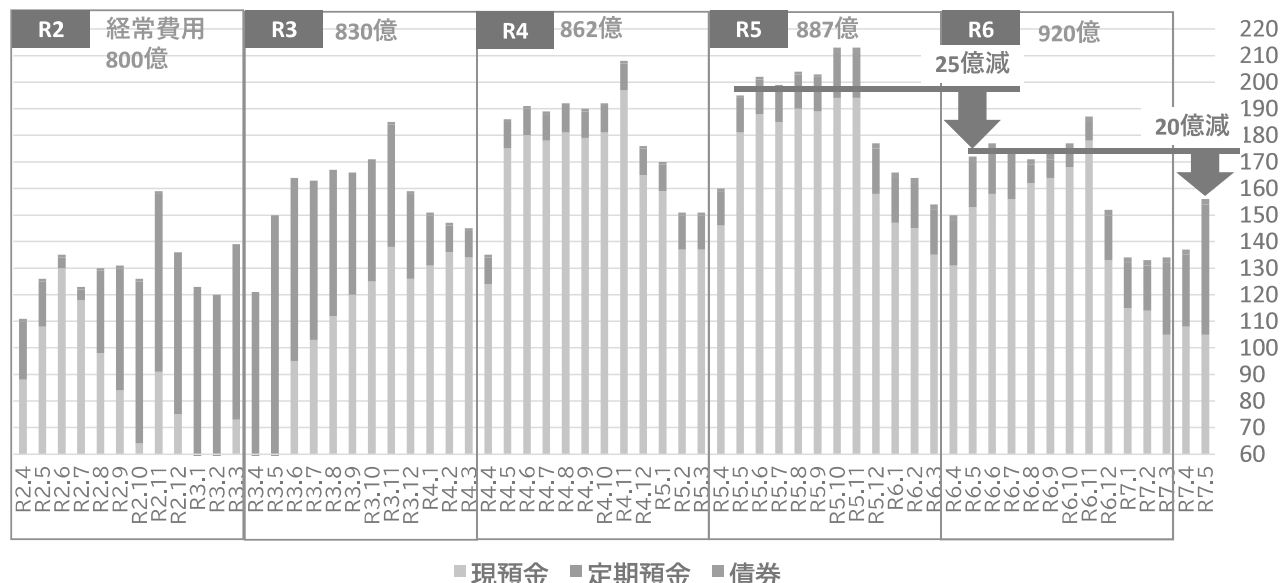
<センター病院> ▲10.8億円(前年度比+11.1億円)

○附属2病院ともに入院単価、新入院患者、病床稼働率等、いずれも前年度より大幅に改善されたが、給与改定、物価高騰等の影響により全体としては赤字決算となった。
○附属病院とセンター病院の改善幅の差異について、R6年度はセンター病院におけるコロナ後の患者の戻りが順調であったことなどにより延べ入院患者数が増加したこと、三次救急に加えて二次救急にも注力し応需件数が増加したこと、病院情報システムの償却終了(新システムはR8年度から稼働予定)等による。

1-3 資金状況(月末残高推移)

○令和5、6年度の赤字により、資金残高が減少しています。

○本法人の規模では60～70億円を下回ると資金ショートするリスクが高くなります。



1-4 大学部門の収支悪化について

＜利益分析(主なもの)＞ ※対前年度比で改善した項目は＋表記、悪化した項目は▲表記(単位:億円)

○運営交付金削減、給与改定、物価高騰等により、収支が大幅に悪化しています。

	R6	R5	要因	増減理由
光熱水費、維持管理費等	13.8	13.4	▲ 0.4	委託・保守費等の増
減価償却費(補助金分除く)	6.2	5.5	▲ 0.7	鶴見スパコン償却費増(取得3.7)
職員人件費	23.3	22.1	▲ 1.2	定期昇給(+0.2)、職員増減(+0.5)、人勸影響(+0.6)
教員人件費	52.4	52.1	▲ 0.3	定期昇給(+0.4)、教員現員数(406人→407人)
セグメント振替(医学部臨床系教員)	0.1	0.4	＋ 0.3	教育エフォートの減
退職給付引当金繰入額	3.3	3.8	＋ 0.5	【R5】過年度遡及分の計上(0.5)
費用面の要因	99.1	97.4	▲ 1.7	
授業料収入	32.2	31.8	＋ 0.4	在学生数の増(40名)、休退学の減(21名)
運営交付金	76.1	78.4	▲ 2.4	経常分(▲1.1)、施設整備費(▲1.3)
間接経費による大学運営費充当額	3.0	3.5	▲ 0.6	間接経費収入の減(▲1.3)に伴う、運営費充当減
受託研究費財源による資産取得	1.0	3.1	▲ 2.0	受託研究費獲得減(▲5.6)に伴う資産取得減
科研費財源による資産取得	0.8	1.4	▲ 0.6	高額機器取得減(科研費獲得額11.2→10.8)
会計処理上の利益	1.9	4.5	▲ 2.6	
収益面の要因	113.0	118.2	▲ 5.2	
利益分析 合計			▲ 6.9	

1-5 大学部門の改善状況

運営交付金削減は、すでに中期計画で決定していることから、令和6年度に下記の取組を行いました。

◆外部資金の拡充

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)の獲得(12億/年)に合せて、研究費獲得拡大はもちろんのこと、組織強化・大学改革を進めています。

◆資産の有効活用

研究機器のコアファシリティ化、資金運用の拡充など、限られた資産の有効活用を進めています。

◆基礎研究費の見直し【▲46百万円】

他大学の水準に比べて高額となっていた教員一人あたりの大学からの交付額を減額しました(50→30万円)。ただし、外部資金拡充を進めるため、科研費等上位区分申請者への支援を厚くしています。

◆グローバル関連事業【▲23百万円】

アジア圏大学とのアカデミックコンソーシアムの体制見直しや留学生減免の縮小を進めています。

◆理学部定員増【＋40百万円※完成年度】

令和8年度より、理学部定員20名増やし、不足する理系人材の育成を図ります(設備・体制は現状のまま充実を図ります。)

◆その他、創立100周年事業の縮小、地域貢献センターから産学連携強化等を目指した社会連携センター(仮)への改組、成績優秀者特待生制度の奨学金減額等を決定しました【計▲20百万円】。

1-6 今後の経営改善について

○経営改善に関して今後3か年の計画を策定し、課題を明確にしたうえで取組を進めます。

○2年連続の経常収支赤字(累積35億円)により運営資金が減少している状況にあり、また、今後も厳しい財務状況が見込まれることから、目的積立金等の活用を最小限にとどめるとともに、更なる費用削減と増収に取組み、運転資金の減少に歯止めをかけます。

<大学>

大学部門は固定費が多く、事業見直しには限界があるため、外部資金拡充を進めつつ、人件費をはじめとした構造的な課題に対して抜本的な見直しと料金改定等も視野に検討を進めます。

<附属病院>

新入院患者数の増加、病床稼働率の向上、手術件数の増加など収益向上に取り組むとともに、医薬品費などの医業経費削減にもより一層取り組み、収支改善を図ります。

<センター病院>

新入院患者数・初診患者数・病床稼働率・診療単価等を重点目標として、指標管理するとともに、多職種協働によるPFM 推進や救急・ER 運営一体化、適正な加算算定等により更に収益改善を図ります。

2-1 貸借対照表(法人:資産)

<資産の部>

(単位:百万円)

		令和6年度	令和5年度	対前年度		
資産の部	固定資産	有形固定資産	土地	18,958	19,043	▲85
		建物・構築物	12,191	9,835	2,356	
		工具器具備品(医療機器含)	8,832	9,713	▲881	
		図書	1,281	1,259	22	
		その他	144	396	▲252	
		有形固定資産合計	41,408	40,248	1,160	
		無形固定資産合計	310	265	45	
		投資その他の資産	投資有価証券	394	398	▲4
		長期貸付金	96	87	9	
		長期前払費用等	11	37	▲26	
		長期性預金	1,700	700	1,000	
		預託金・敷金保証金	13	14	▲1	
		投資その他の資産合計	2,216	1,238	978	
		固定資産合計①	43,935	41,752	2,183	
	流動資産	現金及び預金	11,524	14,575	▲3,051	
		未収学生納付金収入	3	1	2	
		未収附属病院収入	12,007	11,338	669	
		その他未収金	882	2,649	▲1,767	
		医薬品及び診療材料	1,371	1,324	47	
		前渡金	104	112	▲8	
		前払費用	45	56	▲11	
		その他	130	124	6	
		流動資産合計②	26,068	30,184	▲4,116	
資産合計(①+②)		70,004	71,937	▲1,933		

金沢ハウス(客員教員宿舎)の市への返還による減

福浦新棟建設等による増

病院情報システム償還終了(センター)等による減

経常損益赤字に伴う資金減少(うち10億円は長期性預金)

R5:福浦新棟建設補助金の未収入金→R6入金

2-2 貸借対照表(法人:負債・純資産)

<負債・純資産の部>

(単位:百万円)

		令和6年度	令和5年度	対前年度
負債の部	資産見返負債	-	-	-
	長期繰延補助金等	4,573	3,213	1,360
	長期借入金	3,000	3,000	-
	退職給付引当金	10,183	9,651	532
	長期リース債務	437	1,070	▲633
	その他	122	120	2
	固定負債合計	18,317	17,056	1,261
	寄附金債務	1,282	1,418	▲136
	前受受託研究費等	1,690	1,528	162
	一年以内返済予定長期借入金	1,500	1,500	-
	未払金	9,573	8,964	609
	短期リース債務	633	769	▲136
	その他	1,079	2,875	▲1,796
純資産の部	流動負債合計	15,759	17,055	▲1,296
	負債合計③	34,076	34,111	▲35
	資本金	18,958	19,047	▲89
	資本剰余金	7,052	6,592	460
	前中期目標期間繰越積立金	4,693	5,419	▲726
	当期末処理損失	▲1,539	6,673	▲8,212
	積立金	6,673	-	6,673
	利益剰余金合計	9,827	12,092	▲2,265
	その他有価証券評価差額金	89	93	▲4
	純資産合計④	35,927	37,825	▲1,898
負債純資産合計(③+④)		70,004	71,937	▲1,933

R7割引率変更により債務は減少する予定(▲約10億円)

病院情報システム償還終了(センター)等による減

福浦新棟竣工に伴う預り金の減

金沢ハウス(客員教員宿舎)の市への返還による減

目的積立金残高: R6は設備投資等に使用

当期総損失15億円→積立金で処理(R7)

2-3 損益計算書(法人:費用)

<経常費用(対前年度比較)>

(単位:百万円)

		令和6年度	令和5年度	対前年度
経常費用	業務費			
	教育経費	1,900	1,695	205
	研究経費	2,572	2,577	▲5
	診療経費	45,062	42,921	2,141
	教育研究支援経費	450	470	▲20
	受託研究費等	2,278	2,450	▲172
	人件費	38,170	36,993	1,177
	一般管理費等	1,520	1,607	▲87
経常費用合計		91,955	88,717	3,238

高額医薬品の購入量増、手術件数の増等より対前年度比21億円の増

受託研究費獲得減に伴う経費減

給与改定の影響7.3億円(大学0.6、附属3.5億、センター3.0)

対前年度比32億円の増

2-4 損益計算書(法人:収益)

＜経常収益(対前年度比較)＞

(単位:百万円)

	令和6年度	令和5年度	対前年度
運営費交付金収益	12,383	12,533	▲ 150
授業料収益等	3,217	3,178	39
附属病院収益	67,750	63,154	4,596
受託研究等収益	2,887	3,368	▲ 481
補助金等収益	1,739	1,764	▲ 25
寄附金収益	796	863	▲ 67
雑益等	1,655	1,719	▲ 64
経常収益合計	90,431	86,582	3,849

運営費交付金の削減による
1.5億円の減

入院患者数、各単価、手術件
数等の増により46億円の増

受託研究費獲得減による4.
8億円の減

＜当期総利益(対前年度比較)＞

臨時損益	▲ 64	8,773	▲ 8,837
目的積立金取崩額	48	36	12
当期総利益	▲ 1,539	6,673	▲ 8,212

＜R5会計基準改訂＞
資産見返負債制度が廃止し
されたことにより、R5決算で
負債残高を臨時利益に計上

2-5 損益計算書(セグメント別)

＜損益計算書(セグメント別)＞

(単位:百万円)

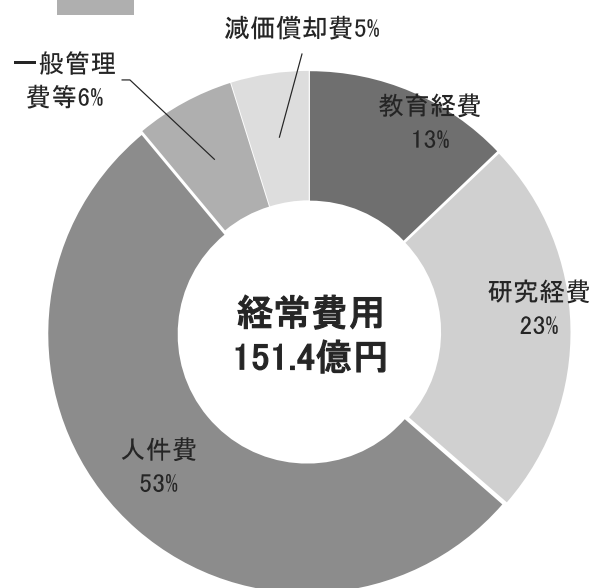
	セグメント情報				6年度 決算	5年度 決算	対前年 増減
	大学	附属病院	センター病院	法人共通			
経常費用①	15,138	38,048	38,809	▲ 39	91,955	88,717	3,238
経常収益②	14,937	37,801	37,732	▲ 39	90,431	86,582	3,849
経常損益③ (③=②-①)	▲ 201	▲ 247	▲ 1,077	-	▲ 1,525	▲ 2,135	610
臨時損失④	2	22	46	-	69	118	▲ 49
臨時利益⑤	2	0	3	-	5	8,891	▲ 8,886
当期純利益⑥ (⑥=③-④+⑤)	▲ 201	▲ 269	▲ 1,120	-	▲ 1,589	6,637	▲ 8,226
目的積立金取崩⑦	2	32	14	-	48	36	12
当期総利益⑧ (⑧=⑥+⑦)	▲ 200	▲ 237	▲ 1,106	-	▲ 1,539	6,673	▲ 8,212

※法人共通(▲39)・・・研究経費等におけるセグメント間での学内取引の相殺

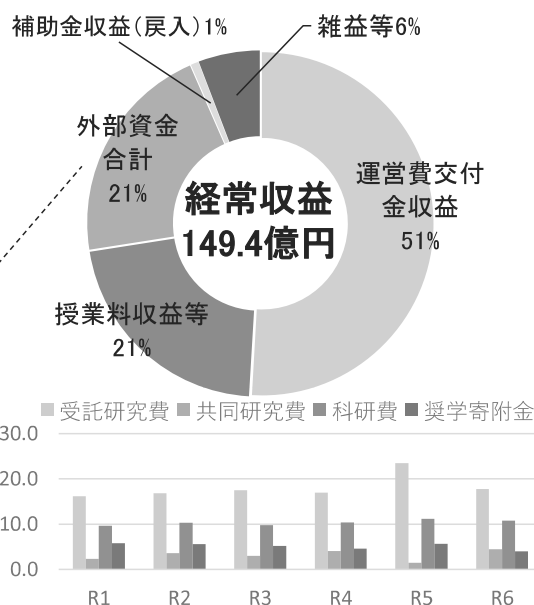
※臨時損失(69)・・・センター病院における未収金徴収不能引当金計上の見直し(46)等

※目的積立金取崩(48)・・・施設整備等にかかるPL費用相当分(48)/取崩合計(726)

2-6 損益計算書:主な増減【大学】

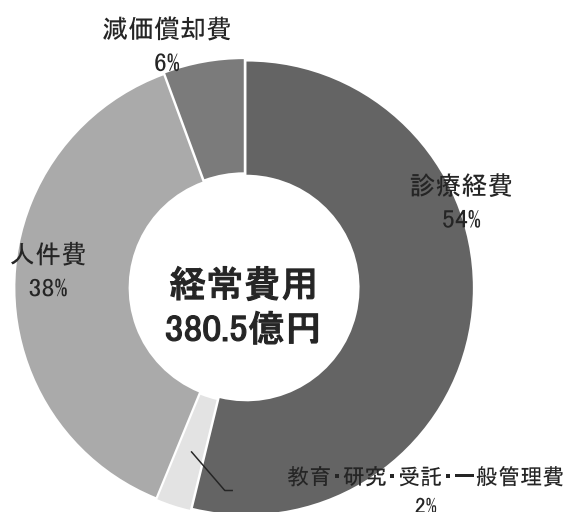


■経常費用 主な増減要因(単位:億円)
 【研究経費 ▲1.4】… 受託研究費獲得減に伴う支出の減(▲1.5)
 【人件費 +0.6】… 退職給付引当(▲0.5)、常勤教員(+0.3)、常勤職員(+1.2※うち給与改定0.6)等
 【一般管理 ▲0.4】… 施設維持管理(+0.3)、消費税納付減(▲0.4)等



■経常収益 主な増減要因(単位:百万円)
 【運営交付金 ▲2.4】… 第4期計画に基づき削減
 【外部資金 ▲3.2】… 受託研究費減(▲5.6)、共同研究費増(+3.0) 等
 【雑益等 ▲1.1】… 科研費寄附受備品減(▲1.0)

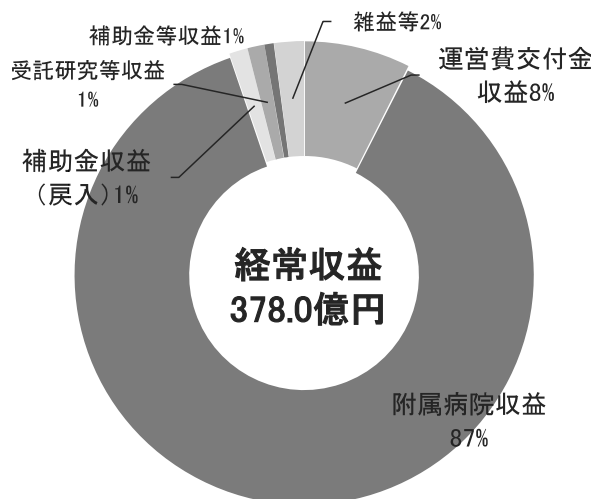
2-7 損益計算書:主な増減【附属】



■経常費用 主な増減要因(単位:億円)
 【診療 +17.7】… 医薬品(+10.5)、診療材料費(+3.0)等
 【人件費 +5.3】… 退職給付引当(▲0.8)、給与改定(+3.5)等

■主な経営指標

	R6	R5
入院単価	102,264円	94,745円
新入院患者数	18,906人	17,731人
病床稼働率(稼働病床)	89.9%	85.2%

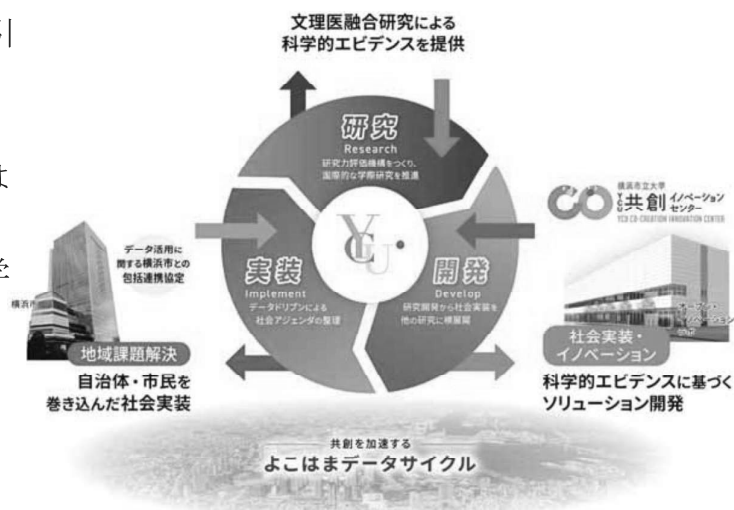


	R6	R5
平均在院日数	10.7日	11.1日
外来単価	25,743円	24,962円
外来患者数/1日	1,893人	1,860人
手術件数	7,642件	7,335件
救急車受入台数	4,770回	4,375回
医薬材料費比率	44.6%	43.9%

4-1 TOPICS J-PEAKS採択(R7年1月)

～「共創を加速する『よこはまデータサイクル』を構築し、
未来社会における高いヘルスウェルビーイングを実現する」～

- ・ 日本全体の研究力の発展をけん引する国内25大学に選ばれた
- ・ 5年間総額55億円の支援経費
- ・ J-PEAKSはいわゆる研究事業ではなく大学のイノベーションが前提
- ・ 大学改革を進め、日本の研究大学の山々(J-PEAKS)の1つとなって社会変革をけん引
- ・ 国際都市・横浜から日本の研究力向上の貢献を目指す



<3つのターゲット>

- ・ 卓越研究を戦略的に加速させるための組織強化
- ・ 大学の研究成果と社会アジェンダ解決をつなぐイノベーションの創出
- ・ 産官学連携による知識集約型社会の形成

4-2 TOPICS(法人経営)

○改革推進会議における取組

- ・ 法人幹部による「課題事業検討会(大学部門)」を開催し、事業見直し(全18事業)基礎研究費の交付基準やグローバル関連事業の見直しをはじめ、収入拡充と支出縮小の取組を実施
- ・ 附属2病院についても、病院長のマネジメントのもと、法人全体による進捗管理を行いながら、多面的な経営改善に取り組む
- ・ 教授会や説明会等で全教職員に経営状況を適切に共有、改革マインドを醸成
- ・ 依然として厳しい経営状況が続くため、7年度は構造改革に向けた議論・検討を加速

○教職員エンゲージメント向上の取組

- ・ 軽装勤務の通年化、時差勤務・テレワークの範囲拡大(大学部門)
- ・ ストレスチェックの集団分析で、法人全体の総合健康リスクが前年度より改善



○医学部・病院等再整備事業

- ・ 再整備候補地の見直しに伴い、基本計画(事業規模等を除く)の市大案を取りまとめ
※建設コストの上昇など不確定要素が多い状況の中、検討すべき課題が多岐にわたることから、基本計画案の策定をR7年3月からR7年11月に延長

4-3 TOPICS(大学)

○教育

- ・ 文科省「大学・高専機能強化支援事業」により、データサイエンス学部及び研究科の再編・強化を教職協働により前進(学部はR9年度から、研究科はR7年度から定員増)
- ・ 研究力強化(大学院の活性化)と理系人材の更なる輩出を目指し、理学部の入学定員増を決定(120名→140名・R8年度から)
- ・ JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING 事業)」による博士後期学生への経済的支援及びキャリア支援

○研究・教員の活躍・地域医療への貢献

- ・ 福浦キャンパスに「オープンイノベーションラボ」竣工
- ・ 大学発ベンチャー「CROSS SYNC」※が「遠隔ICUから始める“ICU Anywhere”の実現」でNIKKEI THE PITCH GROWTH 2024-2025のグランプリを受賞(※代表取締役:附属病院 高木俊介准教授)
- ・ 武部貴則特別教授(本学医学部卒)がブタなどの動物に「お尻から呼吸する能力があることを発見した」として、イグ・ノーベル賞を受賞
- ・ 医学部と2つの附属病院を有する県内唯一の公立大学として医療人材の育成・輩出に取り組み、地域医療に貢献



※2024年4月時点

4-4 TOPICS (附属病院)

○重症系病床の拡充

- 重症系病床を5床増床して、ICU8床・HCU21床とし、重症患者の受入体制を強化するとともに、積極的に救急患者の受け入れを行った。

新入院患者数 R5:17,731人 → R6:18,906人

救急患者数 R5: 4,375人 → R6: 4,770人



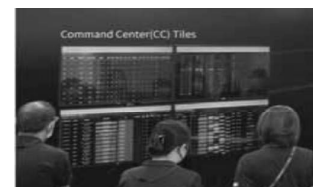
○病床運用の効率化

- 病床管理システム(コマンドセンター)を導入し、リアルタイムで病床の稼働状況を分析・可視化し、多職種によるチーム(コマンドチーム)が事例分析や効率的な病床運用を図った結果、病床稼働率や診療単価が向上した。

病床稼働率 R5:85.2% → R6:89.9%

平均在院日数 R5:11.1日 → R6:10.7日

入院診療単価 R5:94,745円 → R6:102,264円



○遠隔ICU事業の実施

- 医療の質の向上や医師の働き方改革のため、他病院のICUを遠隔管理で支援。
対象施設: 市民病院、脳卒中・神経脊椎センター、
横須賀市民病院(R6まで)、国際医療福祉大学病院(栃木県)(R7から)

4-5 TOPICS (センター病院)

OPFM推進(※1)を軸とした病院機能変革

- 積極的な情報発信等による前方連携の強化
(新入院患者の増18,637人→19,893人)、
看護部主導による新たな病床管理宣言
(病床稼働率向上83.9%→89.2%)、
DPC期間も考慮した入退院支援及び
入院期間管理、クラウド活用による後方連携の効率化
(DPC II 期間(※2)内率改善73.6%→74.4%)

(※1) 病院の入退院管理を効率化し、病床の稼働率や医療の質を向上させるための取組

(※2) 症例ごとの全国平均入院期間。この期間以内の退院をすることで診療単価向上が図られる

PFMが目指すサイクル



○世界初の先進的治療によるパーキンソン病治療

- 脳深部刺激療法(DBS)において、刺激を患者の症状に合わせて自動設定することで、より安定した症状管理や副作用のリスクの軽減が期待されるアダプティブDBSを世界で初めて当院で稼働

○重症系病床(HCU)の2床増床

- 工事期間中も休床せず、移転して継続稼働
- R7年1月から12床となってオープンし、手術後をはじめとした重症患者の受け入れ

脳深部刺激療法 (DBS)

(脳内に留置した電極と胸に埋め込んだ刺激発生装置を接続し、脳内の標的部位の刺激を行うことで症状緩和を図る)

紹介記事

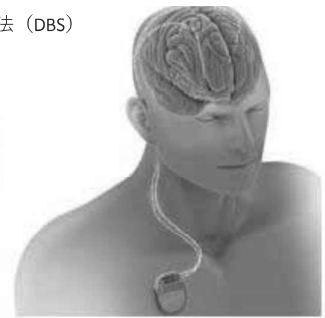


図:日本メドトロニック社より提供

令和6年度決算概要報告

※四捨五入により、見た目の計算と一致しない場合があります (単位:億円)

◆法人全体

	①	②	③	④	⑤	
項 目	R6決算	R6 当初予算	予算差引 ①-②	R5決算	前年度差引 ①-④	対前年度増減理由
経常費用合計 a	919.6	931.9	▲12.0	887.2	32.4	※以下、各セグメント増減理由のとおり
経常収益合計 b	904.3	919.7	▲15.0	865.8	38.5	
経常利益 c (=b-a)	▲15.2	▲12.2	▲3.0	▲21.4	6.1	
臨時損失 d	0.7	-	0.7	1.2	▲0.5	
臨時利益 e	0.1	-	0.1	88.9	▲88.9	
当期純利益 f (=c+e-d)	▲15.9	▲12.2	▲3.7	66.4	▲82.3	
目的積立金取崩額 g	0.5	11.6	▲11.1	0.4	0.1	
当期総利益 h (=f+g)	▲15.4	▲0.6	▲14.8	66.7	▲82.1	

◆大学

	①	②	③	④	⑤	
項 目	R6決算	R6 当初予算	予算差引 ①-②	R5決算	前年度差引 ①-④	対前年度増減理由
教育経費	19.5	20.1	▲0.6	18.2	1.3	・DS研究科定員増に伴う什器購入(+0.6)、業務委託費の増(+0.5:新DS支援業務委託、入試システム改修他)、留学生宿舍賃借料の増(+0.1)、光熱水費の増(+0.1)
研究経費	35.6	36.2	▲0.6	37.1	▲1.4	・受託研究費獲得減に伴う費用減(▲1.5)、光熱水費の増(+0.1)
人件費合計	79.5	79.5	0.1	78.9	0.6	
役員人件費	0.5	0.5	▲0.0	0.4	0.0	
教員人件費	52.4	52.9	▲0.6	52.1	0.3	・定期昇給+0.4・教員の増+1人(406人→407人)
セグメント人件費振替額	0.1	0.2	▲0.2	0.4	▲0.3	※医学部所属教員の教育・診療エフォートにより3セグメントで費用按分
職員人件費	23.3	22.5	0.8	22.1	1.2	・定期昇給(+0.2)・職員の増(総合職190→191人・その他10人、+54)・人事委員会勧告の影響(+0.6)
退職給付引当金繰入	3.3	3.3	0.0	3.9	▲0.5	・[R5]過年度遡及分の計上(▲0.6)
一般管理費等	9.4	8.7	0.7	9.8	▲0.4	・設備維持管理業務委託費の増(+0.3)、消費税納付算出額の減(▲0.4) ・[R5]R2～R4年度消費税の追加納付(R5:0.2)
減価償却費	7.3	8.3	▲0.9	7.5	▲0.2	・鶴見Cスバコンリース: +0.6(0.1→0.7) ・[R5]鶴見NMR装置償却終了(R5:0.9)
うち光熱水費	8.3	9.2	▲0.9	8.1	0.2	・電気料(+0.1)、ガス料(+0.1)
経常費用合計 a	151.4	152.8	▲1.4	151.5	▲0.1	
運営費交付金収益	76.1	76.3	▲0.2	78.4	▲2.4	・経常分(▲1.1)、施設整備費(▲1.3)
授業料収益等	32.2	32.0	0.1	31.8	0.4	・在学生数の増(40名)、休退学の減(21名)
外部資金合計	31.3	32.3	▲1.0	34.5	▲3.2	
受託	21.7	23.5	▲1.8	27.0	▲5.3	・受託研究費獲得額の減: ▲5.6(23.4→17.8) ・共同研究費獲得額の増: +3.0(1.5→4.5)
奨学寄附金	5.3	4.6	0.7	5.0	0.3	
補助金	4.3	4.2	0.1	2.5	1.8	・オープンアクセス加速化事業の増(+0.7)、次世代研究者プログラムの増(+0.5)大学・高専機能強化支援事業(支援1・支援2)の増(+0.7)
その他補助金収益(戻入)	1.1	1.1	▲0.0	2.0	▲0.9	
雑益等	8.7	7.4	1.3	9.8	▲1.1	・寄付金収益の減: ▲0.1(1.8→1.7)、科研費寄附受の減: ▲1.0(1.2→0.2)
経常収益合計 b	149.4	149.2	0.2	156.5	▲7.1	
経常利益 c (=b-a)	▲2.0	▲3.6	1.6	5.0	▲7.0	
臨時損失 d	0.0	-	0.0	0.1	▲0.1	・工具器具備品除却損の減
臨時利益 e	0.0	-	0.0	32.4	▲32.4	・[R5]会計基準改定に伴う資産見返負債収益化(▲32.4)
当期純利益 f (=c+e-d)	▲2.0	▲3.6	1.6	37.4	▲39.4	
目的積立金取崩額 g	0.0	3.6	▲3.6	0.0	0.0	
当期総利益 h (=f+g)	▲2.0	-	▲2.0	37.4	▲39.4	
人件費比率	53.2%	53.3%	▲0.0%	50.4%	2.8%	

(単位:億円)

◆附属病院

① ② ③ ④ ⑤

項 目		R6決算	R6 当初予算	予算差引 ①-②	R5決算	前年度差引 ①-④	対前年度増減理由
経常費用	診療経費※1	204.6	192.9	11.7	186.9	17.7	・(下記以外)委託費+2.8(サイクロtron部分更新(+0.6)、重症系手術部門システム部分更新(+0.6)、清掃(+0.2)、エネセン熱源整備(+0.2))
	うち医薬品費	103.7	93.1	10.6	93.2	10.5	・単価が高い抗がん剤や難病治療薬の購入額の増加(+11.0、キムリア等CAR-T+6.2、その他医療用医薬品+4.8)
	うち診療材料費	43.6	42.6	1.0	40.6	3.0	・患者数及び手術件数の増加(+307件)に伴う増
	教育・研究・受託研究・一般管理費等	9.1	12.1	▲3.0	9.1	0.0	
	人件費	145.2	144.7	0.5	139.9	5.3	
	教員人件費	21.1	21.8	▲0.7	19.0	2.1	・定期昇給+0.2・教員の増(+19人、+2.0)
	セグメント人件費振替額	3.0	2.8	0.2	2.6	0.3	※附属所属教員の教育・診療エフォートにより3セグメントで費用按分
	職員人件費	117.7	116.9	0.8	113.9	3.7	・定期昇給(+1.0)・職員の減(▲17人、▲1.2)・人事委員会勧告の影響(+3.5)
	退職給付引当金繰入	3.5	3.3	0.2	4.3	▲0.8	【R5】過年度遡及分の計上(+1.0)
	減価償却費	21.5	21.7	▲0.2	21.7	▲0.2	
	うち光熱水費	7.1	8.6	▲1.5	6.9	0.2	・電気料の増(+0.2) ※単価▲166.64円、使用量+2.8% ※ガス料…基本料金+1,399円、従量単価(㎡)▲16円、使用量▲1.0%
	経常費用合計 a	380.5	371.4	9.1	357.6	22.9	
経常収益	運営費交付金収益	28.2	28.0	0.2	27.7	0.5	
	運営交付金交付額	28.2	28.0	0.2	27.7	0.5	・経常分(▲0.2)、施設整備費(+0.5)
	資産取得分等 (施設整備等)	-	-	-	-	-	
	附属病院収益	330.1	322.9	7.2	304.9	25.2	
	うち入院収益	207.9	207.8	0.0	188.3	19.6	・延入院患者数の増(+4,641人、影響額+4.7億円) ・入院手術件数の増(+302件)等に伴う入院単価の上昇(+7,519円、影響額+14.9億円) ※※うち、ベースアップ評価料の影響額(+1.7)
	うち外来収益	118.7	111.5	7.2	113.2	5.5	・外来患者数の増(+8,075人、影響額+2.1億円) ・化学療法センター稼働増(+363件)等に伴う外来単価の上昇(影響額+3.5億円) ※※うち、ベースアップ評価料の影響額(+0.1)
	その他補助金収益(戻入)	4.9	4.7	0.2	4.8	0.1	
	受託研究収益	4.5	6.9	▲2.4	4.3	0.2	
	補助金等収益	2.5	1.9	0.5	3.2	▲0.8	・勤務医の労働時間短縮に向けた体制整備補助金(+0.9)
	うちコロナ関係補助金	-	-	-	1.3	▲1.3	・対象補助金終了のため皆減
	雑益等	7.9	7.1	0.9	8.2	▲0.2	・【R5】取得救急自動車の皆減(寄付金▲0.2)
	経常収益合計 b	378.0	371.5	6.6	353.0	25.0	
経常利益 c (=b-a)		▲2.5	0.0	▲2.5	▲4.6	2.1	
臨時損失 d	臨時損失 d	0.2	-	0.2	0.8	▲0.6	・【R5】R2/R3コロナ補助金返還及びコンビニ&カフェ棟過年度分固定資産税の皆減 ・【R6】固定資産除却損4,106,365円計上)
	臨時利益 e	0.0	-	0.0	26.5	▲26.5	・【R5】会計基準改定による影響額
当期純利益 f (=c+e-d)		▲2.7	0.0	▲2.7	21.1	▲23.8	
目的積立金取崩額 g		0.3	3.5	▲3.2	0.2	0.1	・共創イノベ(0.2)、施設整備非償却分(0.1)
当期総利益 h (=f+g)		▲2.4	3.6	▲5.9	21.4	▲23.7	
入院単価		102,264円	97,697円	4,567円	94,745円	7,519円	
入院患者数(のべ数)		202,355人	211,700人	▲9,345人	197,714人	4,641人	
新入院患者数		18,906人	19,245人	▲339人	17,731人	1,175人	
病床稼働率(許可病床)	85.2%	88.7%	▲3.5%	82.6%	2.6%		
	(稼働病床)	89.9%	91.5%	▲1.6%	85.2%	4.7%	
平均在院日数		10.7日	11.0日	▲0.3日	11.1日	▲0.4日	
外来単価		25,743円	24,437円	1,306円	24,962円	781円	
外来患者数/1日		1,893人	1,871人	22人	1,860人	33人	延外来患者数+8,075人
外来初診患者数/1日		163人	174人	▲11人	160人	3人	
手術件数		7,642件	7,500件	142件	7,335件	307件	入院+302件、外来+5件
救急車受入台数		4,770回	-回	-回	4,375回	395回	
二次救急応需率		92.9%	90.0%	2.9%	86.9%	6.0%	
医薬材料費比率		44.6%	42.0%	2.6%	43.9%	0.8%	医薬品費比率(31.4%)、診療材料費比率(13.2%)
人件費比率		44.0%	44.8%	▲0.8%	45.9%	▲1.9%	

(単位:億円)

◆センター病院

① ② ③ ④ ⑤

項 目	R6決算	R6 当初予算	予算差引 ①-②	R5決算	前年度差引 ①-④	対前年度増減理由
診療経費※1	209.7	224.0	▲14.3	201.6	8.1	・(下記以外)委託費の増(外注検査委託(+0.7)、医事委託(+0.2)、清掃委託(+0.1))
うち医薬品費	89.1	98.3	▲9.2	85.9	3.2	・CART療法の開始(+2件、イescalタ(+0.7))や外来化学療法の増加(+994件)等による増
うち診療材料費	57.1	58.8	▲1.7	52.5	4.7	・手術件数の増加(+421件)による増
教育・研究・受託研究・ 一般管理費等	6.2	6.9	▲0.8	6.3	▲0.1	・訴訟関係解決金の減(▲0.3)、治験人件費の増(+0.1)
人件費	157.0	161.9	▲4.9	151.1	5.8	
教員人件費	29.2	30.0	▲0.8	28.4	0.9	・定期昇給(+0.1) ・教員の増(+6人、+0.7)
セグメント人件費振替額	▲3.0	▲3.0	▲0.0	▲3.1	0.0	※センター所属教員の教育・診療エフォートにより3セグメントで費用按分
職員人件費	126.8	131.2	▲4.5	121.1	5.7	・定期昇給(+0.8) ・職員の増(+25人、+2.3) ・人事委員会勧告の影響(+3.0)
退職給付引当金繰入	4.0	3.6	0.4	4.7	▲0.7	・【R5】過年度遡及分の計上(▲1.1)
減価償却費	15.3	15.0	0.3	19.6	▲4.3	・病院情報システムの償却終了(▲3.0)
うち光熱水費	9.1	10.0	▲0.9	8.9	0.2	・本館照明LED化に伴う電気料の減(▲0.1) ※単価同、使用量▲3.1% ・ガス料の増(+0.3) ※単価+14.8円、使用量▲3.3%
経常費用合計 a	388.1	407.7	▲19.6	378.5	9.5	
運営費交付金収益	19.6	19.6	▲0.0	19.2	0.3	
運営交付金交付額	19.6	19.6	▲0.0	19.2	0.3	・経常分(▲0.2)、施設整備費(+0.5)
資産取得分等 (施設整備等)	-	-	-	-	-	
附属病院収益	347.5	370.6	▲23.1	326.7	20.8	
うち入院収益	223.5	236.5	▲13.0	205.2	18.3	・延入院患者数の増(+10,917人、影響額+11億円) ・入院手術件数(+287件)の増加に伴う入院単価の上昇(+3,471円、影響額+7億円) ※うち、ベースアップ評価料の影響額+1.9億円
うち外来収益	121.8	133.2	▲11.3	119.7	2.2	・外来手術件数の増加(+134件)及び外来化学療法件数の増加(+994件)に伴う外来単価 の上昇(+977円、影響額+4億円) ・延外来患者数の減(▲7,461人、影響額▲2億円) ※うち、ベースアップ評価料の影響額+0.1億円
その他補助金収益(戻入)	3.0	3.0	0.0	3.0	0.0	
受託研究収益	2.7	2.3	0.3	2.4	0.3	
補助金等収益	1.6	0.9	0.7	2.2	▲0.6	・勤務医の労働時間短縮に向けた体制整備補助金(+0.6)
うちコロナ関係補助金	-	-	-	1.2	▲1.2	・対象補助金終了のため皆減
雑益等	3.0	2.7	0.3	3.2	▲0.3	・物価高騰支援金の減(▲0.4)
経常収益合計 b	377.3	399.1	▲21.8	356.7	20.6	
経常利益 c (=b-a)	▲10.8	▲8.6	▲2.1	▲21.8	11.1	
臨時損失 d	0.5	-	0.5	0.3	0.2	・徴収不能引当金の算出方法見直しに伴う過年度修正分の増(+0.5)
臨時利益 e	0.0	-	0.0	30.0	▲29.9	・【R5】会計基準改定による影響額
当期純利益 f (=c+e-d)	▲11.2	▲8.6	▲2.6	7.9	▲19.1	
目的積立金取崩額 g	0.1	4.4	▲4.3	0.1	0.0	
当期総利益 h (=f+g)	▲11.1	▲4.2	▲6.8	8.0	▲19.0	
入院単価	104,519円	104,900円	▲381円	101,047円	3,471円	
入院患者数(のべ数)	212,731人	223,745人	▲11,014人	201,814人	10,917人	
新入院患者数	19,893人	20,717人	▲824人	18,637人	1,256人	
病床稼働率(許可病床)	83.7%	84.2%	▲0.5%	76.0%	7.8%	
(稼働病床)	89.2%	94.0%	▲4.8%	83.9%	5.3%	
平均在院日数	10.7日	10.8日	▲0.1日	10.8日	▲0.1日	
外来単価	28,941円	29,500円	▲559円	27,965円	977円	
外来患者数/1日	1,723人	1,850人	▲127人	1,754人	▲31人	延外来患者数▲7,461人
外来初診患者数/1日	172人	183人	▲11人	172人	0人	
手術件数	9,761件	9,400件	361件	9,340件	421件	入院+287件、外来+134件
救急車受入台数	5,136回	-	-回	4,402回	734回	消防からの受入+641回、他院からの受入+99回
二次救急応需率	93.3%	85.0%	8.3%	80.3%	12.9%	
医薬材料費比率	42.1%	42.4%	▲0.3%	42.3%	▲0.3%	医薬品費比率(25.6%)、診療材料費比率(16.4%)

令和6年度計画実績の概要について

【評価の凡例】

S:計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある

B:【標準】計画どおり実施している C:計画を十分に実施していない

A:計画を上回って実施している

D:重大な改善事項がある

令和 7 年 7 月 7 日
横浜市公立大学法人評価委員会
資 料 2 - 3

大項目	中項目	中項目評価	計画No.	小項目	小項目評価	主な評価(小項目)の理由	参考:R5自己評価
I 教育	1	新たな時代を見据えた教育の提供	B	【1】教育の質保証	B		B
				【2】全学共通の教育の推進	B	一部未達成となった指標があるが、その他の取組の実績を踏まえてB評価	B
	2	5学部6研究科における教育の充実	A	【3】〈国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部〉	A	・「大学・高専機能強化支援事業」により、データサイエンス学部及び研究科の再編・強化を教職協働により前進させた。 ・新たな取組として、理学部の入学定員増員を検討し、方向性（令和8年度から理学部入学定員を120名から140名に増員）を決定した。 これらの実績からA評価 ●指標10項目（定量6・定性4）・・・定量的指標6項目中5項目達成（未達1）	A
				【4】〈医学部〉	B		B
				【5】〈都市社会文化研究科・国際マネジメント研究科・生命ナノシステム科学研究科・生命医科学研究科・データサイエンス研究科〉	A	・「大学・高専機能強化支援事業」により、データサイエンス学部及び研究科の再編・強化を教職協働により前進させた。 ・SPRING事業により大学院博士後期課程の学生への経済的支援・キャリア形成支援を促進した。 これらの実績からA評価 ●指標8項目（定量2・定性6）・・・定量的指標2項目中1項目達成（未達1）	A
				【6】〈医学研究科〉	B		B
	3	時代に即した学修環境・学生支援の提供	B	【7】学修者本位の教育に向けた学修環境提供	A	・学術情報センターで動画・資料等の学修支援コンテンツのブラッシュアップに取り組み、教員への積極的な周知を行った結果、指標を上回るコンテンツの利用に繋がった。これらの実績からA評価 ※ガイダンス資料閲覧回数:目標2,200回/年⇒実績4,664回/年 ●指標7項目（定量4・定性3）・・・定量的指標4項目中4項目達成	B
				【8】学生生活支援	B	一部未達成となった指標があるが、その他の取組の実績を踏まえてB評価	B
	4	多様で優秀な人材の獲得と輩出	B	【9】優秀な人材の獲得	B	一部未達成となった指標があるが、その他の取組の実績を踏まえてB評価	B
				【10】キャリア支援	B		B
	5	社会人の学び直し	B	【11】リカレント教育をはじめとする社会ニーズに対応したプログラムの充実	B		B

大項目	中項目	中項目評価	計画No.	小項目	小項目評価	主な評価(小項目)の理由	参考:R5自己評価
Ⅱ 研究	1 先進的・学際的研究等の推進	B	【12】	先進的な医科学研究の推進	B	・学術誌等掲載論文数、学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数、臨床研究法における臨床研究の実施件数が未達成(目標15件→実績10件)となった。臨床研究中核病院の承認に向けては、次世代臨床研究センターの人員体制について、さらなる検討が必要となる。 ・新規治験の受入件数は附属2病院とも年度計画を上回る件数となった。 ・臨床研究指導員・管理員による研究課題の適正な管理を促進した。 これらの実績から、全体ではB評価 ※新規治験の受入件数:目標【附】25 件/年【セ】22 件/年→実績【附】31件/年【セ】32件/年	A
			【13】	各領域における研究活動の推進	C	学術誌等掲載論文数、学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数の指標未達成のためC評価 ※論文数の中期計画指標は、コロナ禍で論文執筆機会・対象が増え、論文数が上昇した令和2～4年度を含む第3期実績の10%増としている。 ※主要な学術誌等掲載論文数:目標2,203 件/5～6年度累計(進捗率33.3%) →実績2,112 件/5～6年度累計(進捗率31.2%) ※主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10%論文数:目標288 件/5～6年度累計(進捗率33.3%) →実績222 件/5～6年度累計(進捗率25.7%) ●指標2項目(定量2)・・・定量的指標2項目中2項目未達	B
	2 オープンイノベーションの推進	S	【14】	オープンイノベーションの推進	S	・教職協働プロジェクトにより課題検討と体制整備や、ステークホルダーとの議論を経て提案内容を再定義するなど、申請初年度における指摘事項の改善を進め、J-PEAKSの採択に至った。 ・ベンチャー創出累計数が指標を上回った。 これらの実績からS評価 ※ベンチャー創出累計数:目標11件→実績14件(中期計画15件/期間中) ●指標4項目(定量3、定性1)・・・定量的指標3項目中3項目達成	B
	3 研究基盤の強化及び支援体制の整備	B	【15】	研究基盤の強化	B		B
			【16】	研究者の育成	B		B

大項目	中項目		中項目 評価	計画 No.	小項目	小項目 評価	主な評価(小項目)の理由	参考:R5 自己評価
Ⅲ 医療	1	患者本位の医療の提供と患者安全の取組	B	【17】	患者本位の医療の提供	附:B セ:B		【附】B 【セ】A
				【18】	安全・安心な医療の提供	附:B セ:B		【附】B 【セ】B
				【19】	医療におけるDXの推進	附:B セ:B		【附】B 【セ】A
				【20】	チーム医療の強化	附:A セ:A	・【附】コマンドチームを新設し、DPC期間を考慮した適切な退院時期の協議やDPCコーディングについて理解を深め、DPC期間Ⅱ以内の退院割合が目標を達成するなど、経営改善に繋がった。 ・【セ】病院長のマネジメントのもと、5つのアクションプランと、「精緻なデータ分析」「多職種協働」「Patient Flow Management (PFM)」の3つのキーワードを示し、収支改善に繋がった。 これらの実績からA評価 ●指標6項目(定量2、定性4)・・・定量的指標2項目中1項目達成(未達1)	【附】B 【セ】B
	2	質の高い医療の提供	A	【21】	高度で質の高い医療の提供	附:A セ:A	・【附】遠隔ICU事業について、特定集中治療室遠隔支援加算の施設基準である医師少数地域の医療機関支援として、国際医療福祉大学病院(那須塩原市)との調整が完了した。(令和7年6月からの支援開始) ・【附・セ】手術件数について、手術枠の見直し等により指標を上回った。 ・【附・セ】救急応需率について、積極的な取組により、過去5年間最多件数となり、年度計画を大きく上回った。これらの実績からA評価 ※手術件数:目標【附】7,500件/年【セ】9,400件/年➡実績【附】7,642件/年【セ】9,761件/年 ※救急応需率:目標【附】90%/年【セ】90%/年(三次救急)85%/年(二次救急) ➡実績【附】92.9%/年【セ】97.5%/年(三次救急)93.6%/年(二次救急) ●指標9項目(定量3、定性6)・・・定量的指標3項目中3項目達成	【附】A 【セ】B
				【22】	医療の国際化への対応	附:B セ:B		【附】B 【セ】A

大項目	中項目		中項目評価	計画No.	小項目	小項目評価	主な評価(小項目)の理由	参考:R5自己評価
Ⅲ 医療	3	政策的医療への貢献、地域医療の推進	A	【23】	政策的医療の推進	附: B セ: A	【セ】不妊治療件数について年度計画を上回り、病院全体の手術件数増にも貢献した。これらの実績からセンター病院はA評価 ※不妊治療件数: 目標 男性205 件/年、女性195 件/年⇒実績 男性209件/年、女性267件/年 ●指標6項目(定量2、定性4)・・・定量的指標2項目中2項目達成	【附】A 【セ】S
				【24】	地域医療への貢献	附: A セ: B	・【附・セ】新入院患者数について年度計画を上回った。附属病院は、中期計画の指標を上回り、過去5年間で最多の新入院患者数となった。 ・【附・セ】症状が安定した患者について積極的な逆紹介を行い、近隣医療機関との適切な役割分担を図ることで、地域における医療機能の連携と最適化を推進した。 ・【セ】医療機関訪問は、年間目標100件に対し127件の訪問を実施し、医師間の信頼関係の構築や患者情報の円滑な共有を実現した。 これらの実績から附属病院はA評価。 センター病院は紹介割合、外来初診患者数で指標未達成となるも、上記の取組を踏まえB評価 ※新入院患者数: 目標【附】18,000人/年【セ】19,530人/年 ⇒実績【附】18,906人【セ】19,893人 ※逆紹介割合: 目標【附】52%/年【セ】50%/年⇒実績【附】58.1%/年 【セ】54.9%/年 ●指標7項目(定量5、定性2)・・・定量的指標5項目中3項目達成(未達2)	【附】B 【セ】C
	4	明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	B	【25】	医療人材の育成	附: B セ: B		【附】A 【セ】A
Ⅳ 法人経営	1	経営改革を強力に推進するガバナンスの強化	B	【26】	ガバナンス強化	B		B
	2	不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保	C	【27】	DX推進及び業務改善	B		B
				【28】	自律的な運営に資する外部資金獲得施策の実施	C	寄附獲得額(5億円)の指標が未達成のためC評価 ※寄附獲得額: 目標5億円⇒実績2億8500万円 ●指標2項目(定量2)・・・定量的指標2項目中1項目達成(未達1)	C
				【29】	法人全体の効率的かつ効果的な運営	C	法人全体で経営改善に取り組むも、法人全体で約15.2億円(経常損失)の赤字決算となったためC評価 ●指標5項目(定性5)	C
	3	コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立	B	【30】	コンプライアンスの推進	B		B
				【31】	リスクマネジメント・危機管理	B		B

大項目	中項目	中項目 評価	計画 No.	小項目	小項目 評価	主な評価(小項目)の理由	参考:R5 自己評価
Ⅳ 法人経営	4	B	【32】	人材の育成と活用	B		B
			【33】	教職員が生き生きと働くための組織風土の醸成	A	・【附・セ】医師事務作業補助者等他職種へのタスクシフト・シェア、各診療科部長宛に時間外・休日労働時間実績の配信と部長会での情報共有、補助金を活用した勤務環境改善等を実施した。 ・離職率、配偶者の出産に伴う休暇取得率の指標が未達成。ただし、配偶者の出産に伴う休暇取得率は79.2%となり、前年度53.8%から改善している。新たに軽装勤務の通年化、時差勤務・テレワークの範囲拡大(大学部門)を実施し、エンゲージメント向上に資する取組を進めた。また、ストレスチェックの集団分析で、法人全体での総合健康リスクが昨年度より改善した。(主に上司・同僚の支援に関する項目が改善) これらの実績によりA評価 ※医師事務作業補助者数:目標【附】32名【セ】44名⇒実績【附】34名【セ】46名 ※離職率:目標 看護職(1年以内)10%以下/年、看護職以外(3年以内)10%以下/年 ⇒実績 看護職(1年以内)14.7%/年、看護職以外(3年以内)12.0%/年 ※配偶者の出産に伴う休暇(3日以上)の取得率:目標100%/年⇒実績79.2%/年(R5年度53.8%) ●指標11項目(定量5、定性6)・・・定量的指標5項目中3項目達成(未達2)	C
	5	B	【34】	創立100周年事業の実現	B		B
			【35】	卒業生連携	B		B
			【36】	横浜市と連携したグローバルネットワークの構築	B		B
			【37】	戦略的広報の展開	B		B
	6	B	【38】	コーディネート機能の強化による地域連携の推進	B		B
	7	B	【39】	附属2病院における連携の推進及び経営基盤の強化	附:A セ:A	・【附】医学管理料約3,400万円増、麻酔管理料約2,000万円増、【セ】救急医療管理加算9,800万円増、入院退院支援加算4,100万円増により、経営改善に繋がった。 ・【附・セ】経営指標を活用し、診療科ごとの目標を設定し、病院長のマネジメントのもと経営改善に向けた検討を行った。 ・【附・セ】看護師や薬剤師レジデントの人事交流を実施した。 これらの実績からA評価 ●指標4項目(定性4)	【附】B 【セ】B
			【40】	医学部・病院等再整備の検討	B		B
	8	B	【41】	環境へ配慮したキャンパスづくり	B		B
			【42】	交流を意識したキャンパスの充実	B		B
-	自己点検及び評価	B	【43】	計画の浸透と適切かつ効果的な自己点検・評価の実施及び情報公開	B		B

【参考資料】定量的指標の実績一覧

× = 未達成

計画No.	小項目	R6年度指標		R6年度実績	R5年度実績	R6達成状況	R6自己評価
教育	【1】 教育の質保証	④教学IRと連動したFD実施回数	1回/年	2回/年	1回/年		B
		⑤FD・SD受講率	85%/年	87%/年	89.4%/年		
	【2】 全学共通の教育の推進	④学生満足度(共通教養カリキュラム評価関連)	83%/年	87%/年	88.0%/年		B
		⑤学生満足度(各種留学プログラム)	80%/年	2Q・夏季短期プログラム89.6%、交換留学89.0%/年	-		
		⑥数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)履修率	36%/年	49.1%/年	37.5%/年		
		⑦領域横断型プログラム修了者数	60人/年	51名/年(前年度修了者数42名)	42人/年	×	
	【3】 <国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部>	⑤学生満足度(カリキュラム評価関連)	87%/年	89%/年	88.7%/年		A
		⑥学生による学修成果の評価状況(カリキュラム評価関連)	a.自ら課題を見つけ、それを論理的に解決できる能力94%/年 b.豊かな教養94%/年 c.高い専門的能力84%/年 d.国際的視野69%/年	a.96% b.94% c.85% d.80%	a.95.6%/年 b.93.8%/年 c.85.6%/年 d.69.9%/年		
		⑦【国際教養学部】2Q交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等(オンラインを含む。)の経験者数	135名/年	193名/年	-		
		⑧【国際商学部】2Q交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等(オンラインを含む。)の経験者数	100名/年	103名/年	-		
		⑨【理学部】2Q交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等(オンラインを含む。)の経験者数	20名/年	18名/年	-	×	
		⑩【DS学部】「DS人材育成プログラム」(数理・DS・AI教育プログラム(応用基礎レベルプラス)認定)受講者割合	80%/年	89.2%/年	-		
	【4】 <医学部>	④FD受講率	80%/年	医学科86.7%/年、看護学科100%/年	-		B
	【5】 <都市社会文化研究科・国際マネジメント研究科・生命ナノシステム科学研究科・生命医科学研究科・データサイエンス研究科>	⑦【DS研究科】DSリカレントプログラムの社会人受講者数	5名/年	2名/年	-	×	A
		⑧【データサイエンス研究科】データサイエンス学部からの進学者数(令和7年4月入学者数)	16名/年	16名/年	-		
	【6】 <医学研究科>	④教育評価アンケートの満足度	80%/年	研究指導に対する満足度:80.3%、講義が自分の研究に役立つかどうかの満足度:85.7%/年	-		B
		⑤医理連携セミナーの実施回数	2回/年	2回/年(延べ222名参加)	-		

計画No.	小項目	R6年度指標		R6年度実績	R5年度実績	R6達成状況	R6自己評価
教育	【7】学修者本位の教育に向けた学修環境提供	④資料利活用促進を目的とした展示回数	学内12回/年、オンライン6回/年	学内13回/年、オンライン6回/年	学内:12回 オンライン:6回		A
		⑤資料利活用促進を目的としたSNSの配信回数	60回/年	148回/年	230回/年		
		⑥学生満足度(ガイダンス受講アンケート、学生生活アンケート等)	73%/年	84.4%/年	89%/年		
		⑦ガイダンス資料閲覧回数	2,200回/年	4,664回/年(動画視聴回数、PDF資料閲覧数合計)	5,343回/年		
	【8】学生生活支援	⑥SDGs関連取組の課外活動支援数	4件/年	5件/年	5件/年		B
		⑦ボランティア派遣数	650人/年	706名人/年	791人/年		
		⑧学生定期健康診断受診率	85%/年	82.8%/年	83.7%/年	×	
	【9】優秀な人材の獲得	⑥「教育理念・目標、教育内容・カリキュラム」を選じた学生割合	第3期の平均(82%)超/年	89.6%人/年	89.6%/年		B
		⑦交流レベルの落ちている既存協定校との交換留学活性化	3校/年	4校/年(ウィーバー、淑明女子、台湾科技、オレブロ)	-		
		⑧外国人講師招へいによる英語で学ぶ科目提供	履修者60名、開講科目2件、外国人講師招へい人数2名/年	履修者55名/年、開講科目2科目、外国人講師招へい人数2名/年	-	×	
		⑨交換留学生満足度調査満足度	80%/年	91.2%/年	-		
		⑩交換留学生数	前年度比110%	前年度比:158.1%(目標比+48.1%)(R5年度人数:43名、R6年度人数:68名)	-		
	【10】キャリア支援	⑤就職希望者における就職率	全国平均値1%超/年	99.1%/年※全国平均98.0%	99.3%/年 ※全国平均値:98.1%		B
		⑥学生満足度(進路関連)	第3期の平均(89%)超/年	93.4%/年	93.6%/年		
		⑦看護学科卒業生の附属2病院への就職率	60%/年	70.1%/年	66.3%/年		
		⑧国内就職希望の外国人留学生における就職率・内定率	第3期の平均(83%)超/年	86.7%/年	88.2%/年		
		⑨YCU-ADVANCE Program修了率	80%/年	85.7%/年	-		
	【11】リカレント教育をはじめとする社会ニーズに対応したプログラムの充実	③「リカレント教育」に係るプログラム設置数	12件/年	12件/年	12件/年		B
		④YCU医療経営・政策プログラム社会人受講生満足度	80%/年	92.5%/年	94.1%/年		
		⑤DSリカレントプログラム受講生満足度	80%/年	100%/年※受講者数2名のため参考値	-		
		⑥がんプロ事業のリカレントプログラム受講生満足度	80%/年	100%/年	-		

計画No.		小項目	R6年度指標		R6年度実績	R5年度実績	R6達成状況	R6自己評価
研究	【12】	先進的な医科学研究の推進	③主要な学術誌等掲載論文数	2,203件/5～6年度累計(進捗率33.3%)	2,112件/5～6年度累計(進捗率31.2%)	1,003件/年(進捗率15.2%)	×	B
			④主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10%論文数	288件/5～6年度累計(進捗率33.3%)	222件/5～6年度累計(進捗率25.7%)	91件/年(進捗率10.5%)	×	
			⑤臨床研究法における臨床研究の実施件数	15件/年	10件/年	13件/年	×	
			⑥新規治験の受入件数(医師主導治験も含む)受入件数	【附】25件/年【セ】22件/年	【附】31件/年【セ】32件/年	【附】33件/年【セ】32件/年		
	【13】	各領域における研究活動の推進	【再掲】①主要な学術誌等掲載論文数	【再掲】2,203件/5～6年度累計(進捗率33.3%)	【再掲】2,112件/5～6年度累計(進捗率31.2%)	1,003件/年(進捗率15.2%)	×	C
			【再掲】②主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10%論文数	【再掲】288件/5～6年度累計(進捗率33.3%)	【再掲】222件/5～6年度累計(進捗率25.7%)	91件/年(進捗率10.5%)	×	
	【14】	オープンイノベーションの推進	②ベンチャー創出累計数	11件/累計(進捗率73.3%)	14件(進捗率93.3%)	11件/年(進捗率73.3%)		S
			③民間企業等との共同・受託研究数	734件/5～6年度累計(進捗率33.3%)	784件/5～6年度累計(進捗率35.6%)	388件/年(進捗率17.6%)		
			④共創イノベーションセンターが主導する共同・受託研究にかかる新規契約件数	10件/年	10件/年	9件/年		
	【15】	研究基盤の強化	①科研費採択件数	1,136件/5～6年度累計(進捗率33.3%)	1,171件/5～6年度累計(進捗率34.4%)	591件(進捗率17.3%)		B
			②科研費獲得金額	1,992百万円/5～6年度累計(進捗率33.3%)	2,129百万円/5～6年度累計(進捗率35.6%)	1,075百万円(進捗率17.9%)		
	【16】	研究者の育成	【再掲】①科研費採択件数	【再掲】1,136件/5～6年度累計(進捗率33.3%)	【再掲】1,171件/5～6年度累計(進捗率34.4%)	591件(進捗率17.3%)		B
医療	【17】	患者本位の医療の提供	⑥患者満足度	【附】78%/年【セ】78%/年	【附】77.4%/年【セ】77.9%/年※ほぼ目標水準	【附】78.9%/年【セ】78.4%/		附:B セ:B
	【18】	安全・安心な医療の提供	⑦医療安全管理研修受講率	【附・セ】100%/年	【附・セ】100%/年	【附・セ】100%/年		附:B セ:B
			⑧感染対策研修受講率	【附】2回/年100%【セ】2回/年100%	【附・セ】2回/年100%	-		
	【19】	医療におけるDXの推進	⑤情報セキュリティ研修の開催	【附】1回/年【セ】1回/年	【附・セ】1回/年(e-ラーニング形式による)	-		附:B セ:B
	【20】	チーム医療の強化	⑤クリニカルパス適用率	【附】51%/年【セ】56%/年	【附】52.9%【セ】56%	【附】51.4%/年【セ】56.8%/年		附:A セ:A
			⑥DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合	【附】76%/年【セ】75%/年	【附】76.2%【セ】74.3%	【附】76.5%/年【セ】73.6%/年		
	【21】	高度で質の高い医療の提供	⑦手術件数	【附】7,500件/年【セ】9,400件/年	【附】7,642件/年【セ】9,761件/年	【附】7,335件/年【セ】9,340件/年		附:A セ:A
			⑧先進医療申請のための先行研究着手件数	【附】1件/年【セ】1件/年	【附】2件/年【セ】1件/年	【附・セ】0件/年		
			⑨救急応需率	【附】90%/年【セ】90%/年(三次救急)、85%/年(二次救急)	【附】92.9%/年【セ】97.5%/年(三次救急)、93.6%/年(二次救急)	【附】86.5%/年【セ】95.6%/年		

計画No.	小項目	R6年度指標		R6年度実績	R5年度実績	R6達成状況	R6自己評価
医療	【22】医療の国際化への対応	定性的指標	定性指標	定性指標	-		附:B セ:B
	【23】政策的医療の推進	【再掲】⑤救急応需率	【附】90%/年【セ】90%/年(三次救急)、85%/年(二次救急)	【附】92.9%/年【セ】97.5%/年(三次救急)、93.6%/年(二次救急)	【附】86.5%/年【セ】95.6%/年		附:B セ:A
		⑥不妊治療件数	【セ】男性205件/年、女性195件/年	【セ】男性209件/年、女性267件/年	【セ】男性 204件/年、女性 305件/年		
	【24】地域医療への貢献	③紹介割合	【附】87%/年【セ】100%/年	【附】88.2%/年【セ】96.3%/年	【附】88.1%/年【セ】96.7%/年	×	附:A セ:B
		④逆紹介割合	【附】52%/年【セ】50%/年	【附】58.1%/年【セ】54.9%/年	【附】55.5%/年【セ】52.0%/年		
		⑤外来初診患者数	【附】160人/日【セ】183人/日	【附】163人/日【セ】172人/日	【附】159.9人/日【セ】171.6人/日	×	
		⑥新入院患者数	【附】18,000人/年【セ】19,530人/年	【附】18,906人【セ】19,893人	【附】17,641人/年【セ】18,637人/年		
		⑦DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合(再掲)【附】	【附】76%/年【セ】75%/年	【附】76.2%【セ】74.4%	【附】76.5%/年【セ】73.6%/年		
	【25】医療人材の育成	③特定行為研修を修了し、特定行為に従事する看護師	【附】3名/年【セ】2名/年	【附】3名/年【セ】2名/年	【附】4名/年【セ】1名/年		附:B セ:B
		④初期研修医のマッチング率	【附】100%【セ】100%	【附・セ】100%	【附・セ】100%		
		⑤初期臨床研修医マッチング登録者数(全国大学附属病院)	【附】5位以内【セ】5位以内	【附】5位【セ】4位	【附】2位【セ】1位		
		⑥臨床実習指導者講習会の受講者数	【附】1名/年【セ】8名/年	【附】8名/年【セ】7名/年	-		
法人経営	【26】ガバナンス強化	④コンプライアンス推進委員会の開催	2回/年	2回/年	-		B
		⑤内部通報制度委員会の開催	2回/年	2回/年	-		
	【27】DX推進及び業務改善	定性的指標	定性指標	定性指標	-		B
	【28】自律的な運営に資する外部資金獲得施策の実施	【再掲】①科研費獲得金額	【再掲】1,992百万円/5～6年度累計(進捗率33.3%)	【再掲】2,129百万円/5～6年度累計(進捗率35.6%)	1,075百万円(進捗率17.9%)		C
		②寄附獲得額	500百万円/5～6年度累計(進捗率25%)	285百万円/5～6年度累計(進捗率14%)	177百万円(R5達成率71%)	×	
	【29】法人全体の効率的かつ効果的な運営	定性的指標	定性指標	定性指標	-		C
	【30】コンプライアンスの推進	④コンプライアンス関連通知の発出	3回/年	5回/年	-		B
		⑤コンプライアンス関連研修の実施	3回/年	3回/年(4月、7月、1月実施)	-		
		⑥情報セキュリティ研修の実施	2回/年	2回/年(全教職員対象の情報セキュリティ研修・模擬メール訓練)	-		

計画No.	小項目	R6年度指標		R6年度実績	R5年度実績	R6達成状況	R6自己評価
法人経営	【31】リスクマネジメント・危機管理	②防災訓練の実施	大学:5回/年、【附】5回/年、【セ】5回/年	防災訓練の実施【大学】8回/年【附】10回/年【セ】9回/年	【大学】5回【附】5回【セ】5回		B
	【32】人材の育成と活用	定性的指標	定性指標	定性指標	-		B
	【33】教職員が生き生きと働くための組織風土の醸成	⑦離職率	看護職(1年以内)10%以下/年、看護職以外(3年以内)10%以下/年	看護職(1年以内)14.7%/年、看護職以外(3年以内)12.0%/年	-	×	A
		⑧障害者雇用率	2.8%/年(法定雇用率)	2.81%/年	2.58%/年		
		⑨配偶者の出産に伴う休暇(3日以上)の取得率	100%/年	79.2%/年	53.8%/年	×	
		⑩ダイバーシティ推進計画関連情報周知	3回/年	3回/年(LGBTQ展示・今年度の取組・多様な性について周知)	3回/年		
		⑪医師事務作業補助者数	【附】32名【セ】44名	【附】34名【セ】46名	【附】22名【セ】45名		
	【34】創立100周年事業の実現	②講演会開催件数	2回/年	5回/年(イベント含む)	2回/年(歴史を知る講演会)		B
		③百年史・関連リーフレット発刊回数	2回/年	3回/年(本学歴史紹介リーフレット2回、100周年PRリーフレット1回発刊)	-		
	【35】卒業生連携	②卒業生と大学とのつながりを強化するためのイベント開催	4回/年	5回/年(ホームカミングデー等卒業生と連携したイベント)	-		B
	【36】横浜市と連携したグローバルネットワークの構築	①横浜市と連携した国際交流活動の実施件数	7件/年	8件/年	7件/年		B
		②世界大学ランキング500位以内の海外大学と交流を実施する協定数	3校/年	4校/年(UK・ボーツマス大学、豪・キャンベラ大学、オランダ・トゥウェンテ大学、ドイツ・ヴェルツブルク大学)	-		
	【37】戦略的広報の展開	④プレスリリースメディア掲載率	90%/年	100%/年	-		B
	【38】コーディネート機能の強化による地域連携の推進	②地域貢献センター相談対応件数	46件/年	71件/年	55件/年		B
		③市の施策立案等に関わる連携取組件数	34件/年	38件/年	33件/年		
	【39】附属2病院における連携の推進及び経営基盤の強化	定性的指標	定性指標	定性指標	-		附:A セ:A
	【40】医学部・病院等再整備の検討	定性的指標	定性指標	定性指標	-		B
	【41】環境へ配慮したキャンパスづくり	③金沢八景キャンパス総合体育館のLED化	10%/年	総合体育館50%、YCUスクエア100%	金沢八景キャンパス本校舎LED化100%		B
	【42】交流を意識したキャンパスの充実	定性的指標	定性指標	定性指標	-		B

**令和 6 年度公立大学法人横浜市立大学の
年度計画における業務の実績報告書**

**令和 7 年 6 月
公立大学法人横浜市立大学**

目次

公立大学法人横浜市立大学基本情報	3
令和6年度実績報告書「総括」	4
I 教育	8
1 新たな時代を見据えた教育の提供	8
2 5学部6研究科における教育の充実	12
3 時代に即した学修環境・学生支援の提供	18
4 多様で優秀な人材の獲得と輩出	22
5 社会人の学び直し	26
II 研究	27
1 先進的・学際的研究等の推進	27
2 オープンイノベーションの推進	30
3 研究基盤の強化及び支援体制の整備	31
III 医療	33
1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組	33
2 質の高い医療の提供	40
3 政策的医療への貢献、地域医療の推進	44
4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	48
IV 法人経営	50
1 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化	50
2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保	51
3 コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立	55
4 教職員エンゲージメントの向上	57
5 YCU の価値向上	61
6 課題解決を目指した地域社会との協働の推進	65
7 医学部・病院等再整備事業を見据えた取組の推進	66
8 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり	69
V 自己点検及び評価	71

公立大学法人横浜市立大学基本情報

1. 現況（令和7年5月1日現在）

①大学名

横浜市立大学

②所在地

金沢八景キャンパス	横浜市金沢区瀬戸 22-2
福浦キャンパス	横浜市金沢区福浦 3-9
鶴見キャンパス	横浜市鶴見区末広町 1-7-29
舞岡キャンパス	横浜市戸塚区舞岡町 641-12
みなとみらいサテライトキャンパス	横浜市西区みなとみらい 2-2-1
	横浜ランドマークタワー 7階
附属病院	横浜市金沢区福浦 3-9
附属市民総合医療センター	横浜市南区浦舟町 4-57

③役員の状況

理事長	近野 真一
副理事長（学長）	石川 義弘
理事	9名
監事	2名

④教職員数

教員	830名
職員	2,545名

⑤学部・研究科の構成及び学生数	総計 5,275名
国際教養学部	1,283名
国際商学部	1,203名
理学部	541名
国際総合科学部	8名
データサイエンス学部	278名
医学部 医学科	561名
看護学科	435名
都市社会文化研究科（博士前期・後期課程）	47名
国際マネジメント研究科（同）	51名
生命ナノシステム科学研究科（同）	135名
生命医科学研究科（同）	116名
データサイエンス研究科(同)	95名
医学研究科（修士・博士課程及び博士前期・後期課程）	522名

2. 大学全体の理念

①YCU ミッション

国際都市横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。

②取組の基本方針

- ・「横浜から世界へ羽ばたく」人材育成と知の創生・発信
- ・学生・市民・社会に対して本学が有する知的・医療資源の還元

令和6年度実績報告書「総括」

令和6年度は、中央教育審議会による答申『我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～』が令和7年2月に取りまとめられ、急速な少子化の進行を踏まえた大学の縮小・撤退による「規模」の適正化が示されるなど、高等教育のあり方は大きな転換期を迎えた。

そのような中、本学では、第4期中期計画の2年目として、教育・研究・医療それぞれの分野において取組を推進した。文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（以下、「J-PEAKS」という。）」に採択されたことは、特筆すべき点である。

大学に対する社会的な期待が一層高まる中、本学が市民の誇りとなる大学・病院として発展し続けるため、J-PEAKSの採択を契機として研究力強化と大学改革を推進し、地域の中核的な研究大学としてイノベーションを通じた社会変革をけん引することを目指し、令和7年度以降の取組につなげていく。

I 教育

文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」の採択（令和5年度）を受け、データサイエンス学部の令和9年度からの入学定員増（60名→120名）に向けて社会の変化を踏まえた教育課程の改編に向けた学内検討を進めた。研究科については、令和7年度の収容定員増（64名→94名）に向けた体制整備を進め、高度なデジタル人材の育成・輩出に向けた取組を推進した。

社会的要請への対応として、研究力強化（大学院の活性化）と理系人材の更なる輩出を目指し、令和8年度からの理学部の入学定員増（120名→140名）を決定した。あわせて、国の「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING事業）」採択（令和6年度）による、博士後期課程学生への経済的支援（研究奨励費及び研究費）とキャリア形成支援を進めた。

II 研究

令和6年4月に「共創イノベーションセンター」を設置し、学内シーズの発掘から社会実装までをサポートし、産官学連携によるオープンイノベーションの推進と共同・受託研究の獲得に取り組んだ。文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の採択（令和5年度）を受け、福浦キャンパスに産官学共創オープンイノベーション研究施設（オープンイノベーションラボ）を竣工した。

J-PEAKSの申請にあたり、令和6年度に新設した研究担当副学長のリーダーシップのもと、教職協働プロジェクトにより課題検討と体制整備を進めるとともに、ステークホルダーとの議論を経て提案内容を再定義するなど、申請初年度における指摘事項の改善を進めた結果、この度の採択に至った。

Ⅲ 医療

大学病院としての「高度で質の高い医療の提供」に向け、附属病院では遠隔 ICU 事業について医師少数地域の医療機関支援に向けた調整を進め、令和 7 年 6 月からの支援が決定した。センター病院では高度救命救急センター（三次救急）と救急（ER）部（二次救急）の運用一体化を進め、救急応需率と救急医療体制の向上に取り組んだ。

病院の経営改善については、両病院長のリーダーシップのもと、附属病院では「病院機能変革プロジェクト」を設置し、病院運営上の課題解決と経営の安定化を進めたほか、病床可視化ツール「コマンドセンター」の導入により病床管理の効率化を図った。センター病院では「経営戦略会議」による課題解決に取り組んだほか、多職種協働による Patient Flow Management (PFM)を推進した。

また、医学部と 2 つの附属病院を有する県内唯一の公立大学として、全国から多数の入局希望者を受け入れ、医療人材の育成・輩出に取り組み、地域医療を支えている。

Ⅳ 法人経営

前年度の大幅な赤字決算（約 21 億円の経常損失）を受け、令和 6 年度は大学部門の収入拡充・支出削減などの事業見直し、附属 2 病院における多面的な経営改善などの取組を進めた。附属 2 病院では患者数等の経営指標が前年度を大きく上回り、前年度比約 13 億円の収支改善が図られた。一方で、大学部門においては運営交付金及び外部資金の減少、給与改定及び定期昇給等による人件費の増加、物価高騰等の影響により前年度比約 7 億円の収支悪化となり、法人全体では前年度比約 6 億円の改善となったものの、約 15.2 億円（経常損失）の赤字決算となった。

依然として厳しい経営状況が続くことから、構造的課題に着目した議論・検討を加速し、構造改革を進めるとともに、経営改善計画（3 か年）を策定し、経営基盤の立て直しに取り組む。あわせて、J-PEAKS 採択を契機として、教職員が一丸となって大学改革と体質改善を進めていく。

自己評価の集計結果一覧

S：計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある A：計画を上回って実施している B：【標準】計画どおり実施している

C：計画を十分に実施していない D：重大な改善事項がある

大項目	中項目		【計画No.】	自己評価						
Ⅰ 教育				S	A	B	C	D	合計	自己評価
	1	新たな時代を見据えた教育の提供	【1】【2】	0	0	2	0	0	2	B
	2	5学部6研究科における教育の充実	【3】～【6】	0	2	2	0	0	4	A
	3	時代に即した学修環境・学生支援の提供	【7】【8】	0	1	1	0	0	2	B
	4	多様で優秀な人材の獲得と輩出	【9】【10】	0	0	2	0	0	2	B
	5	社会人の学び直し	【11】	0	0	1	0	0	1	B
	評価概要	・多くの指標を計画どおり達成した。 ・【5】DSリカレントプログラムの社会人受講者数等が未達成となったが、【3】文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」により、教育課程の構想検討を進め、新規教員採用及び学内公募ならびに施設改修を行い、データサイエンス学部、研究科の機能強化を着実に進めた。 ・【6】次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING事業）により、大学院博士後期課程の学生への経済的支援・キャリア形成支援を促進した。 ・新たな取組として、理学部の入学定員増員を検討し、方向性（令和8年度から理学部入学定員を120名から140名に増員）を決定した。 これらの実績から、中項目2はA評価とした。								
Ⅱ 研究				S	A	B	C	D	合計	自己評価
	1	先進的・学際的研究等の推進	【12】【13】	0	0	1	1	0	2	B
	2	オープンイノベーションの推進	【14】	1	0	0	0	0	1	S
	3	研究基盤の強化及び支援体制の整備	【15】【16】	0	0	2	0	0	2	B
	評価概要	・【12】【13】臨床研究法における臨床研究実施件数、主要な学術誌等掲載論文数、主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10%論文数等の件数は未達成となった。一方でオープンイノベーション推進による研究プロジェクトや、臨床研究ネットワークを活用した研究プロジェクトを新たに開始したほか、新規治験の受入件数は附属病院、センター病院ともに年度計画の指標を大きく上回った。この実績から、中項目1はB評価とした。 ・【14】J-PEAKSについて、令和6年度に新設した研究担当副学長のリーダーシップのもと、教職協働プロジェクトにより課題検討と体制整備を進めるとともに、ステークホルダーとの議論を経て提案内容を再定義するなど、申請初年度における指摘事項の改善を進め、採択に至った。 ・ベンチャー創出累計数が年度計画を上回る成果となった。 これらの実績から、中項目2はS評価とした。								

Ⅲ 医療			S	A	B	C	D	合計	自己評価
1	患者本位の医療の提供と患者安全の取組	【17】～【20】	0	2	6	0	0	8	B
2	質の高い医療の提供	【21】【22】	0	2	2	0	0	4	A
3	政策的医療への貢献、地域医療の推進	【23】【24】	0	2	2	0	0	4	A
4	明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	【25】	0	0	2	0	0	2	B
評価概要	・多くの指標を計画どおり達成した。 ・【21】救急応需件数は、附属病院・センター病院ともに積極的な取組推進により過去5年間で最多となった。また、手術件数について、附属病院では手術枠の効率的な運用等を行ったことにより、センター病院では生殖医療センターの改修にあわせて手術枠を見直したことにより、目標値を上回った。これらの実績から、中項目2はA評価とした。 ・【24】紹介割合、外来初診患者数はセンター病院で指標未達成となったが、逆紹介割合、新規入院患者数では附属病院・センター病院ともに指標を上回った。また、センター病院では【23】不妊治療件数が指標を上回る成果となり、あわせて病院全体の手術件数増にも貢献した。これらの実績から、中項目3はA評価とした。								
Ⅳ 法人経営			S	A	B	C	D	合計	自己評価
1	経営改革を強力に推進するガバナンスの強化	【26】	0	0	1	0	0	1	B
2	不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保	【27】～【29】	0	0	1	2	0	3	C
3	コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立	【30】【31】	0	0	2	0	0	2	B
4	教職員エンゲージメントの向上	【32】【33】	0	1	1	0	0	2	B
5	YCUの価値向上	【34】～【37】	0	0	4	0	0	4	B
6	課題解決を目指した地域社会との協働の推進	【38】	0	0	1	0	0	1	B
7	医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進	【39】【40】	0	2	1	0	0	3	B
8	環境への配慮や交流を意識したキャンパス作り	【41】【42】	0	0	2	0	0	2	B
評価概要	・多くの指標を計画どおり達成した。 ・【28】寄附獲得額が昨年度に引き続き未達成となった（年度計画5億円→実績2億8,500万円）。また、「改革推進会議」を中心に大学部門の収入拡充・支出削減に向けた事業見直しを行うとともに、附属2病院では、病院長のマネジメントのもと経営改善に取り組んだが、令和6年度決算について法人全体で約15.2億円（経常損失）の赤字となった。これを踏まえて、中項目2はC評価とした。 ・【33】附属病院・センター病院で、医師の働き方改革を着実に進めた。離職率、配偶者の出産に伴う休暇の取得率は昨年度に引き続き未達成となったが、配偶者の出産に伴う休暇の取得率については積極的な休暇の周知等により前年度実績から25.4ポイント改善（R5年度53.8%→R6年度79.2%）した。新たに軽装勤務の通年化、時差勤務・テレワークの範囲拡大（大学部門）を実施し、エンゲージメント向上に資する取組を進めた。また、ストレスチェックの集団分析で、法人全体での総合健康リスクが昨年度より改善した。（主に上司・同僚の支援に関する項目が改善） これらの実績から、中項目4はB評価とした。								
Ⅴ 自己点検及び評価			S	A	B	C	D	合計	自己評価
-	-	【43】	0	0	1	0	0	1	B
評価概要	中期計画の周知と自己点検及び評価を計画通り実施したことを踏まえ、B評価とした。								
合計			1	12	37	3	0	53	-

I 教育

1 新たな時代を見据えた教育の提供

中期計画	【1】教育の質保証	自己評価	B
------	-----------	------	---

全学組織である高等教育推進センターを中心に、教学 I R¹や F D²・ S D³の取組を推進するとともに、自己点検の実施及び大学機関別認証評価の受審を通して、部局や分野を横断した教育プログラム改善の P D C A サイクルを実行し、教育の質保証を図る。社会の変化や高等教育のトレンド、学内における先進的な取組に関する情報を収集し、社会情勢に即した新たな教育を全学に展開することにより、教育の質向上につなげる。

【主な指標】 ◆教学 I R と連動した F D 実施回数：1 回/年 ◆ F D ・ S D 受講率：85%/年 ◆大学機関別認証評価：「認定」/令和 9 年度受審予定

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①教学 I R 活動、 F D ・ S D 活動の推進（＊重点）	①高等教育推進センター教学 IR 部門では学修成果等の教育の質保証に関わる分析を行い、FD・SD 部門では教学 IR と連動した研修会を実施するなど、全学として取組を推進した。
②学生視点を取り入れた教育の質保証の推進	②医学科で実施している学生参加の会議を参考としながら、国際総合科学群の学部、看護学科においても、新入生研修の内容や試験期間等のスケジュール、学習環境等について、学生の声を取り入れた教育改善を行った。
③医学教育分野別評価受審を通じた医学教育の質保証の推進	③医学教育分野別認証評価にて上位評価となる「7 年間の更新」が認定された（認定期間 2024 年 10 月 1 日～2031 年 9 月 30 日）。評価を踏まえ、更なる医学教育充実のために医学教育センター内で指摘事項の改善を進めた。

¹ IR（Institutional Research）：計画立案、政策形成および意思決定等のサポートをするために必要な「情報提供」を目的とした、学内外データの収集・分析機能のこと

² FD（Faculty Development）：授業方法、内容を改善、向上させるための組織的な取組

³ SD（Staff Development）：教職員の職能開発のための組織的な取組

定量的指標	
④教学 I R と連動した F D 実施回数（＊中期）：1 回/年	④2 回/年（9 月 20 日「学生アンケートの活用」、3 月 21 日「なぜ医学部に教学 IR が必要なのか」）
⑤ F D ・ S D 受講率（＊中期）：85%/年	⑤教員受講率 87%/年（国総群の学部 86%、医学科 86%、看護学科 100%）

I 教育

1 新たな時代を見据えた教育の提供

中期計画	【2】全学共通の教育の推進	自己評価	B
------	---------------	------	---

学部教育では、社会情勢の変化や I C T の進展等を踏まえて、全学部生が履修する共通教養教育や領域横断型プログラムを見直し、データ思考教育など時代に即した教育の充実を図る。

また、大学院教育では、研究科を超えた学際的連携を推進するほか、最先端の教育研究機器の活用を進め、教育研究の充実と向上を図る。学部・研究科や分野を超えた連携を推進し、領域横断型教育を実践する。加えて、学部・大学院教育を通して、近年社会から求められている研究倫理に関する取組を体系的に継続して実施していく。さらに、本学が目指すグローバル教育の方針を策定し、国際的にリーダーシップを発揮できる人材の輩出に資する留学体系を整備し、質の高い多様な留学プログラムを構築するとともに、国際共修プログラム⁴等の拡充により充実を図る。

【主な指標】

- ◆学生満足度（共通教養カリキュラム評価関連）：83%/年
- ◆数理・データサイエンス・A I 教育プログラム履修率：50%/年（令和7年度以降）
- ◆領域横断型プログラム修了者数（数理・データサイエンス・A I 教育プログラムを除く）：300 人/期間中

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①グローバル推進方針の策定及び展開（Ⅶグ）	①学長のリーダーシップのもと YCU グローバル教育推進方針を策定・実施した。
②研究倫理教育の実施	②【国際教養学部】ゼミ毎にレポート作成における剽窃行為や不正行為の指導を実施した。卒論作成時に、ゼミ毎に研究倫理の冊子を学生に配布し、研究倫理順守の誓約書の提出を求めた。 【国際商学部】学部でのサーベイ実験等のため、アンケート調査の事前審査等、ゼミ単位での指導を実施した。

⁴ 国際共修プログラム：外国人留学生と日本人学生等、多様な文化的・言語的背景を持つ学生がともに学び合うプログラム

	【理学部】各学年のオリエンテーション、実習ガイダンス及び研究室単位での指導を実施した。 【データサイエンス学部】共通教養科目として主に1年次生を対象としたデータサイエンス倫理を必修科目として実施した。DS研究科では、応用倫理学（DS専攻）・研究倫理（HDS専攻）を必修科目として実施した。 【医学部】医学科4年生を対象とした研究倫理教育eラーニング受講率100%を達成した。医学科1年生のグループプログラム全体発表において、「研究不正」や「医師の職業倫理」に関する学生発表を実施した。
③医理連携など学部・研究科間での連携事業（セミナーや講義の聴講、早期履修等）の実施	③医理連携協議会を3回、医理連携セミナーを2回（学生・教職員合計で222名参加）開催した。医学科4年生を対象としたリサーチ・クラークシップで、金沢八景キャンパス生命ナノシステム科学研究科及び鶴見キャンパス生命医科学研究科に計3名の学生を派遣した。
定量的指標	
④学生満足度（共通教養カリキュラム評価関連）（＊中期）：83%/年	④87%/年
⑤学生満足度（各種留学プログラム）（Ⅶグ）（＊新規）：80%/年	⑤89.6%/年（2Q・夏季短期プログラム）、89.0%/年（交換留学）
⑥数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）履修率（＊中期）：36%/年	⑥49.1%/年（各学部のオリエンテーション等での説明、学生への参加申請指導、科目の見直し等により履修促進を実施）
⑦領域横断型プログラム修了者数（＊中期）：60人/年	⑦51名/年 ※前年度修了者数42名

I 教育

2 5 学部 6 研究科における教育の充実

中期計画	【3】〈国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部〉	自己評価	A
------	----------------------------------	------	---

各学部の特長を活かした専門教育により、各分野の基礎から応用にわたる知識や技能、幅広い教養と高い専門的能力、グローバルな視点を有し、社会課題の解決を担う人材を育成する。あわせて、数理・データサイエンス・A I 等の社会の変化に対応する知識を養う教育プログラムを提供する。

さらに、地域社会、企業、研究機関等との連携・協働も含めて得られた「総合知」を活用し、社会の諸課題への確に対応できる人材を育成する。

【主な指標】◆学生満足度（カリキュラム評価関連）：87%/年 ◆学生による学修成果の評価状況（カリキュラム評価関連）：第3期の水準超

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①社会の変化に対応する知識や技能、幅広い教養と高い専門的能力、グローバルな視点を養う教育プログラムの提供（Ⅶグ）（＊重点）	①ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを踏まえ、「データサイエンス人材育成プログラム」等の専門的プログラムや「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム」、「YCU グローバル・スタディーズ・プログラム」等の領域横断プログラムを提供した。また、2 Q 交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等を提供した。
②【国際商学部】「国際商学部データサイエンス人材育成プログラム」の「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」申請	②申請し承認された。
③【理学部】・理学部に適したデータ科学教育の導入に向けて、カリキュラムの検証及び必要に応じた見直しの実施	③副理学部長を中心とするワーキングを設置し、データ関連科目（シミュレーション・インフォマティクス）カリキュラム素案を作成した。
④【データサイエンス学部】文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」による「新データサイエンス学部（仮称）」に向けた検討準備（＊重点）	④データサイエンス学部・研究科の収容定員増を見据えて、教育課程の構想検討し、履修プログラムの改定素案が完成した。また、新規教員採用及び学内教員公募、ならびに施設改修を進めた。本学の教育研究の基軸の一つとなるデータサイエンス学部・研究科の体制強化・教育研究環境整備を進めることができた。

定量的指標	
⑤学生満足度（カリキュラム評価関連）（＊中期） 87%/年	⑤89%/年
⑥学生による学修成果の評価状況（カリキュラム評価関連）（＊中期） a.自ら課題を見つけ、それを論理的に解決できる能力：94%/年 b.豊かな教養：94%/年 c.高い専門的能力：84%/年 d.国際的視野：69%/年	⑥a.自ら課題を見つけ、それを論理的に解決できる能力 96%/年 b.豊かな教養 94%/年 c.高い専門的能力 85%/年 d.国際的視野 80%/年
⑦【国際教養学部】2Q交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等（オンラインを含む）の経験者数（Ⅶグ）：135名/年	⑦193名/年
⑧【国際商学部】2Q交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等（オンラインを含む）の経験者数（Ⅶグ）：100名/年	⑧103名/年
⑨【理学部】2Q交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等（オンラインを含む）の経験者数（Ⅶグ）：20名/年	⑨18名/年
⑩【データサイエンス学部】「データサイエンス人材育成プログラム」（数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベルプラス）認定）受講者割合：80%/年	⑩89.2%/年

特記事項
・指標④「大学・高専機能強化支援事業」（令和5年度採択）により、データサイエンス学部及び研究科の再編・強化を教職協働で推進した。 ・新たな取組として、研究力強化（大学院の活性化）と理系人材の更なる輩出を目指した理学部の入学定員増員を検討し、方向性（令和8年度から理学部入学定員を120名から140名に増員）を決定した。 これらの実績からA評価とした。

I 教育

2 5 学部 6 研究科における教育の充実

中期計画	【4】〈医学部〉	自己評価	B
------	----------	------	---

医学部の使命である「地域社会や国内外で活躍できる医学・看護を担う人材育成」を進めるため、モデル・コア・カリキュラム⁵改訂への対応、医学教育分野別評価⁶の受審等を通して、カリキュラムや授業方法等の見直しなど継続的な医学教育の改革・改善を図る。

また、学生ニーズに対応した留学プログラムの構築及び医療現場・医療研究で活用できる実践的な英語力を身に付けるための取組を進める。

さらに、看護学科では、附属 2 病院と協働して優秀な看護師等の養成及び人材育成を一体的に進める。

【主な指標】◆医学教育分野別認証評価：「認定」/ 医学：令和 5 年度受審予定、看護：令和 9 年度受審予定

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①医学教育分野別認証評価・医学（＊中期） 指摘事項の改善 （令和 5 年度受審）	①医学教育分野別認証評価にて上位評価となる「7 年間の更新」が認定された（認定期間 2024 年 10 月 1 日～2031 年 9 月 30 日）。評価を踏まえ、更なる医学教育充実のために医学教育センター内で指摘事項の改善を進めた。
②医学教育分野別認証評価・看護（＊中期）・受審に向けた準備 （令和 9 年度受審予定）	②留学科目及び新科目（キャリア形成看護学実習等）の運用方法や、2 Q プログラムを活用した留学の促進のためのカリキュラム調整等について、適宜改善に向けた検討を進めた。
③看護学科実習運営を附属 2 病院看護部と協働	③講義演習実習において附属 2 病院看護部から講師を招き、授業を実施した。実践者による指導により最新看護に関する情報や取組を学生に教授できた。
定量的指標	
④ F D 受講率：80%/年	④医学科 86.7%/年、看護学科 100%/年

⁵ モデル・コア・カリキュラム：各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分を抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの

⁶ 医学教育分野別評価：受審大学がグローバルスタンダードに基づいた自己点検評価と外部評価により教育の質を改善していく制度

I 教育

2 5 学部 6 研究科における教育の充実

中期計画	【5】〈都市社会文化研究科・国際マネジメント研究科・生命ナノシステム科学研究科・生命医科学研究科・データサイエンス研究科〉	自己評価	A
------	---	------	---

各研究科の特長を活かすとともに、データ思考人材、イノベティブ人材を育成する教育研究体制を構築する。高度な専門性と研究力を有し、学際的視点をもって複雑な社会課題の解決をリードして社会に貢献する人材をより多く輩出するため、特に、学士課程～博士前期課程～博士後期課程の進学（一貫教育）や社会人教育を推進する。

【主な指標】◆学際的連携の推進

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①【都市社会文化研究科】 ・学部－大学院の教育連携の強化 ・リカレント教育プログラム実施の推進	①・学部－大学院一貫教育の構築について、FD で検討を行った。 ・早期履修生申請条件について、大学正規の交換留学で 1 年休学した場合も申請可能とする変更を行った。 ・大学院入学への橋渡しとして実施しているエクステンション講座（アドバンスト講座）を 4 講座開講した。
②【国際マネジメント研究科】 ・リカレント教育プログラム（ソーシャル・イノベーション研究プログラム（SIMBA））実施の推進 ・学内生に向けた大学院進学の広報の充実	②令和 6 年度ソーシャル・イノベーション研究プログラム（SIMBA）修了者 4 名。 学内生に向けた大学院進学の広報により、令和 7 年度入試における内部進学者は博士前期課程 18%、博士後期課程 50%、社会人は博士前期課程 25%、博士後期課程 100%となった。
③【生命ナノシステム科学研究科】 ・社会人を含む優秀な学生の確保に向けた取組の推進 ・国際リトリートプログラムの継続等、グローバル展開の推進	③社会人を経験した学生が博士後期課程に入学した。国際リトリートプログラムで 20 名の学生が研究成果の発表を行った。海外からの優秀な留学生を受け入れる体制づくりを検討した。
④【生命医科学研究科】 ・学際的連携の推進（＊中期） ・教育研究の質向上、効率化に向けたスーパーコンピュータの供用開始	④スーパーコンピュータの全学利用に向けて説明会を開催し、各キャンパス（学生、教職員）から利用申請があった。6 月の本格稼働後、10 月には稼働率が日平均 96.7%に達した。

⑤【データサイエンス研究科】 ・リカレント教育プログラム（DSリカレントプログラム）実施の推進 ・文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」による博士前期課程の入学定員増に向けた教育環境整備の実施（＊重点）	⑤データサイエンス学部・研究科の収容定員増を見据えて、教育課程の構想検討し、履修プログラムの改定素案が完成した。また、新規教員採用及び学内教員公募、ならびに施設改修を進めた。本学の教育研究の基軸の一つとなるデータサイエンス学部・研究科の体制強化・教育研究環境整備を進めることができた。
⑥次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）の推進	⑥次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）を通して、31 名（うち、新規支援 18 名）の博士後期課程の経済的支援を行った。新たな取組として、インターンシップ面談・キャリア支援面談の実施、合同研究発表会の見直し（海外研究者の招待講演、ポスター発表セッションの追加等）や、国内外インターンシップ・海外留学への支援を行った。また、日本学術振興会の特別研究員（DC）への応募を推奨し、本事業で支援を受けた学生から 4 名が合格した。
定量的指標	
⑦【データサイエンス研究科】DSリカレントプログラムの社会人受講者数：5 名/年	⑦2 名/年
⑧【データサイエンス研究科】データサイエンス学部からの進学者数(令和 7 年 4 月入学者数)：16 名/年	⑧16 名/年

特記事項	
・指標⑤「大学・高専機能強化支援事業」（令和 5 年度採択）により、データサイエンス学部及び研究科の再編・強化を教職協働により着実に進めた。 ・指標⑥「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）」により、大学院博士後期課程の学生への経済的支援・キャリア形成支援を促進した。 これらの実績から A 評価とした。	

I 教育

2 5 学部 6 研究科における教育の充実

中期計画	【6】〈医学研究科〉	自己評価	B
------	------------	------	---

高度な学識と実践能力の養成、地域社会や国際社会で活躍・貢献できる人材の育成、研究成果の還元等、社会情勢に応じた取組を展開するほか、感染症対策や公衆衛生施策を担う専門的人材の教育・研究指導を強化する。あわせて、データ思考人材やイノベティブ人材を育成する教育研究体制の構築、研究指導を行うとともに、その評価によって質を高める活動を推進する。また、医療現場で働く学生に向けても、高度な専門性に立脚した実践力を養成するプログラムを展開する。

【主な指標】◆学際的連携の推進

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①リカレント教育プログラム実施の推進	①リカレント教育として、医科学専攻では科目等履修生度を使用し、「がんプロフェッショナル養成プラン」の学外向けプログラムを実施した。
②次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）の推進	②次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）を通して、医学研究科では 8 名（新規採択 5 名、既採択 3 名）の経済的支援を行った。令和 6 年度採択学生募集では、研究科での積極的な周知により、前年度を上回る学生の応募があった。医学研究科関係教職員は SPRING 関係会議に定期的に参加し、担当事務局と連携し選考業務や採択者支援業務を進めた。
③学際的連携（医理連携セミナーや科目提供等）の推進（＊中期）	③「医理連携セミナー」開催（2 回、参加総数 222 名）のほか、理学部の早期履修生 2 名の受け入れ、「バイオインフォマティクス特講」における他研究科の同時開講などを実施した。また、医学研究科の必修講義「生命倫理セミナー」ではデータサイエンス研究科教員や都市社会文化研究科教員による講義を実施した。
定量的指標	
④教育評価アンケートの満足度：80%/年	④研究指導に対する満足度：80.3%、講義が自分の研究に役立つかどうかの満足度：85.7%/年
⑤医理連携セミナーの実施回数：2 回/年	⑤2 回/年（延べ 222 名参加）

I 教育

3 時代に即した学修環境・学生支援の提供

中期計画	【7】学修者本位の教育に向けた学修環境提供	自己評価	A
------	-----------------------	------	---

LMS等⁷を活用した学修履歴の可視化を通して、学生が将来を見据えて主体的に学生生活を送り、成長できる学修環境を提供することで、学修者本位の教育を実践する。また、学術情報については、日常の利用者とのやり取りやアンケート等により学生や教員のニーズを的確に把握し、それに沿った資料の整備や利用環境の充実、資料利活用促進のための取組を進めるとともに、授業連携・教育研究支援を推進する。

【主な指標】◆学生の主体的な学修を支援する取組の推進

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①LMS「YCU-Board」の目標設定及び振り返り機能の活用促進（＊重点）	①説明会とオリエンテーション内での目標記入の呼びかけを新たに行い、前期は44.0%まで目標記入率が上昇した（令和5年度前期30.1%）。令和7年度に向けて学生・教員双方の負担軽減や利便性を高めるための仕様変更と機能改修を行った。
②学生の主体的な学修を支援する取組の推進（＊中期）	②YCU-Board 目標設定振り返り機能と併せて、説明会等により YCU-Board ポートフォリオ機能の利用を促進した。学修成果結果がレーダーチャートで表示される機能において、履修登録の参考になるよう各科目の学修成果配分一覧を学生へ案内した。
③費用対効果等を踏まえた本学の学修・研究に必要となる資料の整備	③資料の選定において、分野別予算の考え方を導入した。電子ジャーナル契約において、価格交渉や予算の調整を行った。
定量的指標	
④資料利活用促進を目的とした展示回数：学内12回/年、オンライン6回/年	④学内13回/年、オンライン6回/年

⁷ LMS（Learning Management System）：学修管理システムのこと

⑤資料利活用促進を目的とした SNS の配信回数：60 回/年	⑤148 回/年（SNS 投稿回数）
⑥学生満足度（ガイダンス受講アンケート、学生生活アンケート等）：73%/年	⑥84.4%/年
⑦ガイダンス資料閲覧回数 ※動画視聴回数+ P D F 資料閲覧数の合計：2,200 回/年	⑦4,664 回/年（動画視聴回数、PDF 資料閲覧数合計）

特記事項	
指標④～⑦学術情報センターで動画・資料等の学修支援コンテンツのブラッシュアップに取り組み、教員への積極的な周知を行った結果、年度計画を上回るコンテンツの利用につながった。これらの実績から A 評価とした。	

I 教育

3 時代に即した学修環境・学生支援の提供

中期計画	【8】学生生活支援	自己評価	B
------	-----------	------	---

多様な学生が安心して充実した学生生活が送れるよう、心身の健康に関する支援を行うとともに、経済的な理由で学びを諦めることのないよう、国における今後の制度の充実の方向性などを踏まえ、周知の徹底に努めるほか、必要な学生に対する丁寧な相談等を行う。

また、課外活動では、特にボランティア活動による地域貢献や、SDGsに向けた取組への支援を推進する。あわせて、学生一人ひとりが個性を発揮し、自ら課題解決する力を身につける機会を創出する。学生への支援にあたっては、社会情勢の変化を踏まえ、学生のニーズに即した制度設計、環境整備を進める。

【主な指標】◆SDGs関連取組の課外活動支援数：4件/年 ◆ボランティア派遣数：650人/年 ◆学生定期健康診断受診率：85%/年

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①在学生対象の経済状況アンケートの実施及び分析による経済支援策のあり方検討の実施	①アンケートを実施・分析し、経済支援策のあり方検討を実施するとともに、国の経済支援制度等の学生への周知を徹底した。
②学生自治会の活性化を図り、学生の自発的な要望の発露を促進	②学生自治会における浜大祭や交流会、環境整備等の自発的な活動支援を行った。医学科においては学生からの意見を聞く機会として「学生懇談会」を2度開催し、学年代表学生からの要望に基づく改善（修繕等）を行った。
③課外活動補助金を見直し、学生のニーズに沿った支援の実施	③補助金申請にかかる新様式での運用の実施と検証（7月～10月）を行い、令和7年度に向けた運用と様式の改善案を策定（12月～3月）した。
④経済的に困窮する学生に対する食の支援の実施（VI地）	④「食の支援」を3回実施した。（8月、11月、1月）
⑤障害学生支援や性の多様性に関する研修等の実施による啓発	⑤学生向けにはLGBTQの理解のため、講義内での学生による発表とディスカッションの実施と、啓発資料の学内掲示を行った。教職員向けにはLGBTQ対応に関する研修の実施と、リーフレットの作成・周知を行った。

定量的指標	
⑥SDG s 関連取組の課外活動支援数（VI地）（＊中期）：4 件/年	⑥5 件/年
⑦ボランティア派遣数（VI地）（＊中期）：650 人/年	⑦706 名/年
⑧学生定期健康診断受診率（＊中期）：85%/年	⑧82.8%/年

I 教育

4 多様で優秀な人材の獲得と輩出

中期計画	【9】 優秀な人材の獲得	自己評価	B
------	--------------	------	---

高等学校新学習指導要領に対応した入学者選抜を実施するとともに、積極的な入試広報活動を進めることで、多様で優秀かつ本学が求める人材の入学者受入れを目指す。高大連携事業では、市立高校とのオンラインも活用した連携の仕組みを構築し、あわせて、県立・私立高校にも展開し、より多くの高校生に本学の強みや特長を伝える機会を創出する。

また、今後策定するグローバル教育の方針に基づき、教育・研究の充実及びキャンパスの国際化を推進するため、優秀な外国人留学生の戦略的な獲得に向け、国際共修プログラム等の拡充により外国人留学生にとって魅力あるカリキュラムを提供するとともに、質の高い交流が可能な海外協定校との関係づくりを進める。

【主な指標】

- ◆本学受験の決め手として「教育理念・目標、教育内容・カリキュラム」を選択した学生：第3期の平均（82%）超/年
- ◆横浜市教育委員会と連携した市立高校を対象としたプログラムの実施

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①新学習指導要領に対応した入学者選抜の実施（＊新規）	①前年度からの変更点や留意点等を教職員に周知し、入学者選抜を適正に実施した。
②新学習指導要領に対応した入学者選抜方法周知のための広報活動強化（＊新規）	②新学習指導要領に対応した入試方法を Web サイト、入学者選抜要項に掲載するとともに、オープンキャンパスや進学相談会等で周知を進めた。
③志願者獲得及びより優秀な学力層の学生獲得	③入試広報活動を継続して実施し、前年度を上回る志願者を獲得した。
④高大連携事業における、オンラインを活用したプログラムの神奈川県内（市立・県立・私立）高校への展開（Ⅵ地）	④共通教養科目「病気を科学する」について、オンライン単日受講受入れのプログラムを新規に立ち上げた。市立高校・県立高校に加え、私立高校へも展開し、計 56 名の参加が得られた。
⑤横浜市教育委員会と連携した市立高校を対象としたプログラムの実施（Ⅵ地）（＊中期）	⑤市立高校の重点校 3 校を中心に、教員派遣による模擬講義や高校の必修である「総合的な探究の時間」において、生徒の研究発表への本学教員による講評や、本学学生による生徒の探究活動のサポート（一部高校のみ）を新たに行った。

定量的指標	
⑥「教育理念・目標、教育内容・カリキュラム」を選択した学生割合（＊中期） 第3期の平均：（82％）超/年	⑥89.6%/年
⑦交流レベルの落ちている既存協定校との交換留学活性化（Ⅶグ）：3校/年	⑦4校/年（ウィーバー、淑明女子、台湾科技、オレブロ）
⑧外国人講師招聘による英語で学ぶ科目提供（Ⅶグ） 履修者60名/年、開講科目2件/年、外国人講師招聘人数2名/年	⑧履修者55名、開講科目2科目（英語プレゼンテーション技術Ⅰ・Ⅱ、Topics in accounting A）、外国人講師招聘人数2名
⑨交換留学生満足度調査満足度（Ⅶグ）：80%/年	⑨91.2%/年（前期：100%、後期：83.3%）
⑩交換留学生数（Ⅶグ）：前年度比110%	⑩前年度比158.1%（+48.1%）（令和5年度人数：43名、令和6年度人数：68名）

I 教育

4 多様で優秀な人材の獲得と輩出

中期計画	【10】キャリア支援	自己評価	B
------	------------	------	---

社会情勢を見据えながら、学部生・大学院生・外国人留学生それぞれの将来目標に向けた多様なキャリア支援の体制を強化する。そのために、共通教養におけるキャリア形成科目及びインターンシップのさらなる充実を図る。

また、社会や地域で活躍する人材をはじめ、国際社会の発展に貢献できる人材の輩出に向けたキャリア支援・教育を実施する。外国人留学生については、「YCU-ADVANCE Program」⁸により産官学一体となって提供する質の高い教育プログラムを通じ、高度外国人材を輩出する。本プログラムに日本人学生等が参加することで、キャンパスのダイバーシティを推進し、相互に学び合い、日本で暮らし働く魅力を伝えることで、外国人留学生の国内就職を支援する。

【主な指標】 ◆就職希望者における就職率：全国平均値 1 %超/年 ◆学生満足度（進路関連）：第 3 期の平均(89%)超/年

◆医学部看護学科卒業生の附属 2 病院への就職率：60%/年

◆国内就職希望の外国人留学生における国内企業等就職率・内定率：第 3 期の平均(83%)超/年

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①国の「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」に基づく新たなインターンシップの適切な実施（VI地）（＊重点）	①国の考え方に基づき、市内企業等の受入先や本学教員と連携し、新たなルールに応じたインターンシップを企画・実施した。
②低学年次から学年進行に沿ったキャリア教育・キャリア形成支援の実施（VI地）	②学部 2 年次から対象となる「キャリア教育プログラム」を新設した。また、「学内合同企業セミナー」の通常開催に加え、就職活動の早期化に対応して年内開催を実施するとともに、参加対象を低学年次にも拡大し、学年進行に沿ったキャリア教育・支援を行った。

⁸ YCU-ADVANCE Program：令和 4 年 3 月 31 日に文部科学省「留学生就職促進教育プログラム」に認定された教育プログラムで、自治体、企業、大学が担う役割を具体化し、留学生の入学から卒業、そして入社後までの一貫したキャリア形成支援を産官学一体となって推進するもの

③外国人留学生を含む多様な属性や、就職・大学院進学等、幅広い進路選択のニーズに応じたキャリア支援イベント等の実施（Ⅶグ）	③留学生就職促進教育プログラム認定制度（YCU-ADVANCE Program）を活用した外国人留学生向けの就職支援や、「理系キャリア形成セミナー」、「海外留学とキャリアを考えるセミナー」を新たに企画・実施し、多様な属性やニーズに応じたキャリア支援イベントを展開した。
④次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）を活用した、博士後期課程の学生に対するキャリア支援の充実（Ⅵ地）	④次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING 事業）とキャリア支援センターの連携を推進し、Web サイトの開設（9 月）やイベント情報等の相互周知を行った。また、SPRING 事業のキャリア支援講座を博士後期課程の学生全体へ公開するとともに、SPRING 支援学生に対するキャリア/インターンシップ個別面談を行うなど、博士後期課程の学生へのキャリア支援を強化した。
定量的指標	
⑤就職希望者における就職率（＊中期）：全国平均値 1 %超/年	⑤99.1% ※全国平均 98.0%
⑥学生満足度（進路関連）（＊中期）：第 3 期の平均（89%）超/年	⑥93.4%
⑦看護学科卒業生の附属 2 病院への就職率（Ⅵ地）（＊中期）60%/年	⑦70.1%/年
⑧国内就職希望の外国人留学生における就職率・内定率（Ⅶグ）（＊中期）：第 3 期の平均（83%）超/年	⑧86.7%
⑨YCU-ADVANCE Program 修了率（Ⅶグ）80%/年	⑨85.7%/年

I 教育

5 社会人の学び直し

中期計画	【11】リカレント教育をはじめとする社会ニーズに対応したプログラムの充実	自己評価	B
------	--------------------------------------	------	---

本学の強みを活かし、社会的に不足が見込まれるデジタル人材等をはじめ、社会の変化に対応できる実践的・専門的な知識や能力の修得を目的とする教育プログラムの充実を図る。地域社会や企業等と連携するとともに、オンラインを活用した授業の実施や、みなとみらいサテライトキャンパスの活用など、現役社会人世代にも受講しやすい環境を整備し、リカレント教育を推進する。

【主な指標】◆「リカレント教育」に係るプログラム設置数：15 件/最終年度

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①リカレント教育プログラム実施の推進（【5】【6】再掲）（Ⅵ地）	①再掲のため【5】【6】参照
②社会ニーズに対応した質の高いエクステンション講座の実施（Ⅵ地）	②アドバンストエクステンション講座では、新たな試みとして企業等から協賛金を募り、一般・協賛企業所属者に向けた講座を開講した。また、学外（崎陽軒、金沢区観光協会、金沢区シティガイド協会等）と連携して地元を再発見する講座を企画し、参加者から高い評価（満足度平均 85%）を得た。
定量的指標	
③「リカレント教育」に係るプログラム設置数（Ⅵ地）（＊中期）：12 件/年	③12 件/年
④Y C U医療経営・政策プログラム社会人受講生満足度（Ⅵ地）：80%/年	④92.5%/年
⑤D S リカレントプログラム受講生満足度（Ⅵ地）：80%/年	⑤100%/年 （※受講生 2 名のため参考値）
⑥がんプロ事業のリカレントプログラム受講生満足度（Ⅵ地）：80%/年	⑥100%/年

Ⅱ 研究

1 先進的・学際的研究等の推進

中期計画	【12】先進的な医科学研究の推進	自己評価	B
------	------------------	------	---

新興・再興感染症など、社会的インパクトのある先進的な医科学研究を推進するとともに、難病ゲノム研究など世界レベルの基盤技術に基づく研究拠点として、その研究成果が将来の医療につながるような、トランスレーショナルリサーチ⁹を加速化し、地域や社会課題の解決を目指す。

また、研究倫理順守を徹底し、臨床研究の信頼性・安全性を確保した臨床研究を実施するとともに、研究の更なる促進を目的として臨床研究支援体制の充実を図る。

【主な指標】

- ◆主要な学術誌等掲載論文数：第3期の実績 10%増/期間中（累計目標：6,610 件）＊Web of Science に掲載されたもの
- ◆主要な学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数：第3期の実績 10%増/期間中（累計目標：864 件）
- ◆臨床研究法における臨床研究の実施件数：80 件/期間中
- ◆新規治験の受入件数（医師主導治験も含む）：【附】150 件/期間中 【セ】130 件/期間中

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①【附】産学官連携を中心とするオープンイノベーション推進と横浜臨床研究ネットワーク活性化により、橋渡し研究の推進、社会実装の加速を実施（Ⅵ地）（Ⅶグ）	①・オープンイノベーション推進による新規研究プロジェクト開始：3 件/年 ・横浜臨床研究ネットワークを活用した新規研究プロジェクト開始：3 件/年 ・メディカルケアテックパートナーリングカンファレンス実施による病院コメディカルの企業への技術指導契約締結：2 件/年
②【附】各診療科に臨床研究指導員・管理員の配置体制を敷いて臨床研究支援を実施	②・臨床研究指導員セミナーをグループワーク形式で開催し、指導員の審査に対する倫理的知識の習得を図った。 ・臨床研究管理員には各診療科内における研究課題の適正な管理を依頼し、定期報告等の期限までの提出率を向上することができた。
定量的指標	

⁹ トランスレーショナルリサーチ：基礎研究の成果の中から有望な知見を選び出し、医療としての実用化につなげることを目的とする医学研究の一領域

③主要な学術誌等掲載論文数（＊中期）：2,203 件/5～6 年度累計（進捗率 33.3%）	③2,112 件/ 5 ～ 6 年度累計（進捗率 31.2%）
④主要な学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数（＊中期）：288 件/5～6 年度累計（進捗率 33.3%）	④222 件/ 5 ～ 6 年度累計（進捗率 25.7%）
⑤臨床研究法における臨床研究の実施件数（＊中期）：15 件/年	⑤10 件/年
⑥新規治験の受入件数（医師主導治験も含む）受入件数（＊中期）： 【附】25 件/年 【セ】22 件/年	⑥【附】31 件/年 【セ】32 件/年

特記事項

- ・指標③④⑤が未達成となったが、指標⑥新規治験の受入件数は附属 2 病院とも年度計画を上回る件数となった。指標⑤臨床研究法における臨床研究の実施件数の未達成については、次世代臨床研究センターの人員体制について、さらなる検討が必要となる。
- ・指標②臨床研究指導員・管理員による研究課題の適正な管理を促進した。
これらの実績から、全体では B 評価とした。

Ⅱ 研究

1 先進的・学際的研究等の推進

中期計画	【13】各領域における研究活動の推進	自己評価	C
------	--------------------	------	---

学長のリーダーシップのもとに、研究 I Rにより、本学の「強み」や今後期待される研究分野を見出し、それらを「戦略的研究推進事業」として支援・展開していくことで、革新的な研究成果を創出する。さらに、学際的研究を推進することで、次の「強み」となる研究分野を創出していく。

【主な指標】

◆主要な学術誌等掲載論文数（再掲）：第3期の実績 10%増/期間中（累計目標：6,610 件）

◆主要な学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数（再掲）：第3期の実績 10%増/期間中（累計目標：864 件）

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定量的指標	
①主要な学術誌等掲載論文数（再掲【12】）（＊中期）： 2,203 件/5～6 年度累計（進捗率 33.3%）	①2,112 件/5～6 年度累計（進捗率 31.2%）
②主要な学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数（再掲【12】）（＊中期）： 288 件/5～6 年度累計（進捗率 33.3%）	②222 件/5～6 年度累計（進捗率 25.7%）

特記事項
指標①②が未達成のため、C 評価とした。

Ⅱ 研究

2 オープンイノベーションの推進

中期計画	【14】オープンイノベーションの推進	自己評価	S
------	--------------------	------	---

研究・産学連携推進センターを中心とした研究支援体制を強化し、オープンイノベーションの推進、産官学連携や知的財産の活用促進、大学発ベンチャーの創出等を通じて、研究成果の社会実装を進める。

また、本学が採択された大型産官学共創拠点事業を組織的に推進するとともに、さらなる拠点事業の獲得を目指す。学内外連携の活性化にあたっては、学内シーズの発掘から社会実装までをサポートする「共創イノベーションセンター」の設置・強化を進める。

【主な指標】◆ベンチャー創出累計数：15 件/期間中 ◆民間企業等との共同・受託研究数：第 3 期の実績 5 %増/期間中（累計目標：2,202 件）

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①産学官共創オープンイノベーション研究施設の整備（＊重点）	①福浦キャンパスに産学官共創オープンイノベーション研究施設としてオープンイノベーションラボの本棟と別棟が竣工した。
定量的指標	
②ベンチャー創出累計数（Ⅵ地）（Ⅶグ）（＊中期）：11 件/累計（進捗率 73.3%）	②14 件（進捗率 93.3%）
③民間企業等との共同・受託研究数（Ⅵ地・Ⅶグ）（＊中期）：734 件/5～6 年度累計（進捗率 33.3%）	③784 件/5～6 年度累計（進捗率 35.3%）
④共創イノベーションセンターが主導する共同・受託研究にかかる新規契約件数：10 件/年	④10 件

特記事項
・指標②が年度計画を上回る実績となった。 ・「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」について、令和 6 年度に新設した研究担当副学長のリーダーシップのもと、教職協働プロジェクトにより課題検討と体制整備を進めるとともに、ステークホルダーとの議論を経て提案内容を再定義するなど、申請初年度における指摘事項の改善を進め、採択に至った。これらの実績から S 評価とした。

Ⅱ 研究

3 研究基盤の強化及び支援体制の整備

中期計画	【15】 研究基盤の強化	自己評価	B
------	--------------	------	---

研究者が効率的・効果的に研究できる機器や設備等を整備するほか、研究支援人材の育成と学内連携の促進により、研究基盤を強化する。

【主な指標】

◆科研費採択件数：第3期の実績5%増/期間中（累計目標：3,407件）

◆科研費獲得金額：第3期の実績5%増/期間中（累計目標：5,977百万円）

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定量的指標	
①科研費採択件数（＊中期）：1,136件/5～6年度累計（進捗率33.3%）	①1,171件／5～6年度累計（進捗率34.4%）
②科研費獲得金額（＊中期）：1,992百万円/5～6年度累計（進捗率33.3%）	②2,129百万円／5～6年度累計（進捗率35.6%）

Ⅱ 研究

3 研究基盤の強化及び支援体制の整備

中期計画	【16】研究者の育成	自己評価	B
------	------------	------	---

「学術的研究推進事業」において、若手研究者や女性研究者等を支援するとともに、異分野融合研究を促進し、研究者の育成と研究領域の拡大を図る。

【主な指標】 ◆科研費採択件数（再掲）：第3期の実績5%増/期間中（累計目標：3,407件）

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定量的指標	
①科研費採択件数（再掲【15】）（＊中期）：1,136件/5～6年度累計（進捗率33.3%）	①1,171件／5～6年度累計（進捗率34.4%）

Ⅲ 医療

1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

中期計画	【17】 患者本位の医療の提供	自己評価	【附】B 【セ】B
------	-----------------	------	-----------

医師や看護師等の医療従事者が、医学的知識の充実に加え、患者に寄り添うことで、患者自身が自分らしい治療を選択し、納得感をもって治療を受けることができるよう、患者本位の医療に対する意識の向上を図る。また、患者ニーズに沿ったデイスージェリー（日帰り手術）の整備や多床室の個室化等療養環境の向上に取り組む。

【主な指標】 ◆患者満足度：【附】80%【セ】80%/最終年度

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①【附・セ】臨床倫理コンサルテーションチーム活動を通じて、臨床倫理的課題に対する対応力の向上を推進し、上部組織である臨床倫理委員会でも倫理的課題が含まれる事案への審議を実施	①【附】臨床倫理コンサルテーションチーム活動を通じて、臨床倫理的課題に対する適切な対応が行われた。臨床倫理委員会への上程案件はなかったが、チーム内での解決が可能であったことから、実効性の高い活動が継続された。 【セ】臨床倫理コンサルテーションチーム活動を通じて、臨床倫理的課題に対する対応力の向上を推進し、上部組織である臨床倫理委員会でも倫理的課題が含まれる事案への審議を実施した。
②【セ】医学的知識の充実や患者本位の意識向上を図るため、院内研修会、eラーニングによる研修の実施	②【セ】コンプライアンス研修や心肺蘇生法に関する動画、実技講習後のアンケートを必須項目としたコースをeラーニングで開講した。
③【セ】患者・医療者のアドバンス・ケア・プランニング ¹⁰ の理解促進と患者の意思決定支援	③【セ】入院後早期から患者・家族の意思決定を支援した。

¹⁰ アドバンス・ケア・プランニング：将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのこと

④【附・セ】患者ニーズ等を踏まえた日帰り手術の推進	④【附】外来手術室での日帰り手術を推進した。 【セ】生殖医療センターの整備により、排卵手術を外科処置室で行い、空いた手術室を日帰り手術等に活用した。
⑤【附】療養環境の向上の推進	⑤【附】入院曜日平準化に取り組み、より柔軟な入院の受入を推進した結果、週末の稼働率が3%以上向上した。
定量的指標	
⑥患者満足度（＊中期）：【附】78%/年　【セ】78%/年	⑥【附】77.4%/年　【セ】77.9%/年

Ⅲ 医療

1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

中期計画	【18】安全・安心な医療の提供	自己評価	【附】B 【セ】B
------	-----------------	------	-----------

全ての教職員が、医療に携わる者としての倫理観を有し、患者の安全を最優先に考えることのできる「安全文化」を醸成することで、より安全で質の高い医療の提供を実現する。また、医療の質を可視化した臨床指標や外部認証等を活用し、継続的な改善の取組を行っていく。さらに、新興感染症等に対応可能な体制整備、情報セキュリティ及び個人情報保護の強化、計画的な施設・設備の改修等により、患者安全を推進する。

【主な指標】

◆医療安全管理研修の受講率：【附】100%【セ】100%/年

◆病院機能評価「一般病院3」継続：「認定」/【附】令和8年度受審予定【セ】令和6年度受審予定

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
① 【附・セ】医療の質向上のため「医療の質可視化プロジェクト」に参加 【セ】臨床指標の公表と指標の分析、改善活動の実施	①【附・セ】「医療の質可視化プロジェクト」に参加し、データを提出した。 【セ】臨床指標の分析結果をWebサイトに公開した。
②【附・セ】福祉保健センターや地域の医師会と連携し、新興感染症等の発生を想定した訓練の実施	②【附】新型インフルエンザ発生時に、医療関係機関と行政で迅速に情報を共有し、早急に体制を確立することを目的とし、訓練を行った。Web会議形式により、関係機関と緊急時の情報共有のシミュレーションを実施した。 【セ】11月に南区感染対策連携会議（新興感染症シミュレーション訓練）をハイブリット開催で実施した新規に介護施設からの参加もあった。
③【附】新興感染症の迅速検査及び診療体制の構築	③【附】構築に向けて、検討を行った。
④【附・セ】個人情報の適正な管理に向けた対策の実施	④【附】毎月コンプライアンス通信を発行するとともに、臨床部長会にて個人情報保護責任者より漏えい事案の説明・再発防止策を報告し、主体性を高めた。 【セ】10月に6部署を対象に相互点検を実施した。また、7月、10月、1～2月のeラーニングで個人情報保護に関する研修を実施した。

⑤【附・セ】計画的な施設・設備の改修	⑤【附】老朽化した設備の更新計画を作成した。 【セ】計画通り施設整備工事を進めた。
⑥病院機能評価「一般病院3」継続：「認定」（＊重点・中期） 【附】令和8年度受審予定【セ】令和6年度受審予定	⑥【附】センター病院の自己評価調査票の状況や受審結果を踏まえ、附属病院での状況を確認し機能改善を進めた。 【セ】5月訪問審査受審、10月に補充的な審査を受審、その結果、条件付きではあるが認定された。令和7年8月末までに改善取組報告及び改善の実績の分かる資料を機構へ提出する。
定量的指標	
⑦医療安全管理研修受講率（＊中期）：【附】100%/年【セ】100%/年	⑦【附・セ】100%/年
⑧感染対策研修受講率：【附】2回/年、100%【セ】2回/、100%	⑧【附・セ】2回/年、100%/年

Ⅲ 医療

1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

中期計画	【19】医療における DX の推進	自己評価	【附】B 【セ】B
------	-------------------	------	-----------

附属 2 病院の統合・再整備を見据えて業務の標準化・効率化に取り組み、病院情報システムの統合の実現を目指す。情報ネットワークや医療情報の更なる活用により、医療の質の向上や業務改善、地域での連携強化に取り組んでいく。

また、情報の高度利用、サイバー攻撃の増大などネットワーク利用環境の変化に対応したセキュリティ対策を実施する。

【主な指標】◆病院情報システムの統合（令和 8 年度まで）

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①【附・セ】研究等支援を目的とした病院情報システムのデータ抽出・提供の実施（VI 地）	①【附】データ抽出の速やかな対応を継続して行った。 【セ】申請に基づき、審査決裁を経て適切にデータの抽出・提供を実施した。
②【附・セ】DPC データ等による経営改善やクリニカルパスによる標準化及び医療の質向上に向けた分析の実施（VI 地）	②【附】分析アプリを作成し、クリニカルパスの分析・改善に取り組んだ。 【セ】Center DPC Times の発行や、DPC コーチングを開始した。クリニカルパス分析は病院長面談時に共有し、在院日数等の改善に取り組むとともに、38 種の新規パスを作成し、76 種のパスの見直しを行った。
③【附・セ】サイバー攻撃に対する訓練の実施	③【附】3 月に病院幹部、救急科医師等が参加し、机上での本部訓練を行った。 【セ】1 月に情報管理運営委員会のメンバーにて、サイバー攻撃を想定した机上訓練を行った。
④病院情報システムの統合に向け、システム構築及び運用調整の実施（令和 8 年度まで）（＊重点・中期）	④【附・セ】2 病院の病院情報システム統合に向け、2 病院の医療者が参加する 25 のワーキングを立ち上げて検討を行った。
定量的指標	
⑤情報セキュリティ研修の開催：【附】1 回/年 【セ】1 回/年	⑤【附・セ】1 回/年（e ラーニング形式による）

Ⅲ 医療

1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

中期計画	【20】 チーム医療の強化	自己評価	【附】 A 【セ】 A
------	---------------	------	-------------

患者にとって最適な医療が提供できる体制づくりを進めるとともに、病院長による強力なリーダーシップのもと、チーム医療の取組を進め、職種や組織を越えた病院全体の一体感を醸成する。

【主な指標】

◆クリニカルパス適用率：【附】 55%【セ】 60%/最終年度

*患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画

◆D P C入院期間Ⅱ以内の退院割合：【附】 76%【セ】 75%/最終年度

*全国の包括医療費支払制度を採用している病院における診断群分類別の平均在院日数

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①【附】多職種からなる A Y A 世代支援チームの取組の推進	①【附】他病院からの患者紹介を受けた際、AYA チームによる受入検討を実施した。
②【セ】緩和ケアチームとの連携・活用による緩和ケアの推進	②【セ】緩和ケア早期介入と各部署の緩和ケアチーム活用を推進した。
③【附・セ】病院長を中心に各種院内会議において、病院の将来像や重点項目等を決定し、院内周知を実施	③【附】病院長自ら、病院の経営状況を把握し、経営改善に向けた取組を集約して各月の臨床部長会で発信した。施設整備委員会の委員長を病院長が務め、各部署からの施設整備要望に対し、採算性や将来性、必要性等から優先順位を決定した。 【セ】毎月の部長会で病院長自ら経営についてのプレゼンを行い、経営状況や経営方針については、全職員受講の e ラーニングを開講した。また、部長会や院内一斉配信メールで周知を実施した。

④【附・セ】経営に関する会議を開催し、各病院の課題解決と経営安定化に向けた取組の推進（＊重点）	④【附】「病院機能変革プロジェクト」を設置し、病院運営上の課題解決と経営の安定化に取り組んだ。コマンドセンターの導入によって病床管理の効率化が図られた。また、コマンドチームを設立し、経営改善に向け取組を推進した。 【セ】経営戦略会議を開催し、病院の課題解決に向けて議論した。また、経営改善に資する講演会の開催や、他病院の視察・比較分析を行った。
定量的指標	
⑤クリニカルパス適用率（＊中期）：【附】51%/年 【セ】56%/年	⑤【附】52.9%/年 【セ】56%/年
⑥D P C入院期間Ⅱ以内の退院割合（＊中期）：【附】76%/年 【セ】75%/年	⑥【附】76.2%/年 【セ】74.3%/年

特記事項	
・【附】コマンドチームを新設し、DPC 期間を考慮した適切な退院時期の協議や DPC コーディングについて理解を深め、DPC 期間Ⅱ以内の退院割合が目標を達成するなど、経営改善につなげた。 ・【セ】病院長のマネジメントのもと、5つのアクションプランと、「精緻なデータ分析」「多職種協働」「Patient Flow Management (PFM)」の3つのキーワードを示し、収支改善につなげた。これらの実績から A 評価とした。	

Ⅲ 医療

2 質の高い医療の提供

中期計画	【21】 高度で質の高い医療の提供	自己評価	【附】 A 【セ】 A
------	-------------------	------	-------------

附属 2 病院の統合を視野に入れた医療機器や施設・設備の計画的な更新に加え、豊富な症例と各々の強みや特色を活かした診療機能の充実を図る。あわせて、先進医療の取得・実施に積極的に取り組み、より高い水準の医療の提供を目指す。

また、附属病院では、市内唯一の特定機能病院として、がんや難病性疾患を中心に高度で先進的な医療を提供するとともに、「がんゲノム医療拠点病院」や「臨床研究中核病院」の認定を目指し、取組を進める。センター病院では、市内唯一の高度救命救急センターとしての役割を果たすとともに、高度急性期病院として地域の医療ニーズに的確に対応する。これらの取組とともに臨床指標等を活用し、医療の質を高めていく。

【主な指標】

◆手術件数：【附】 7,500 件【セ】 9,600 件/最終年度 ◆クオリティインディケーター※に基づく医療の質の向上

※医療の質を評価する指標のこと。提供している医療が本当に質の高いものであるかどうか、課題があればそれが改善されているかどうか等を数値として示すことでよりエビデンスに即した質の高い医療の提供ができるとされている。

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①【附・セ】医療機器や施設・設備について、附属 2 病院統合を踏まえた共同購入や工事の実施	①【附・セ】附属 2 病院統合を踏まえた中長期修繕計画を作成し、優先順位付けを行うとともに予算編成に活用した。次年度の購入予定機器の選定に向けて、2 病院での機種統一などによる価格削減の検討を行った。
②【附】遠隔 I C U ¹¹ 事業の推進（VI 地）	②【附】特定集中治療室遠隔支援加算の施設基準である医師少数地域の医療機関支援として、国際医療福祉大学病院（那須塩原市）との調整が完了し、令和 7 年 6 月からの支援開始が決定した。また、支援先病院からの負担金徴収条件について妥結し、覚書締結に至った。

¹¹ 遠隔 ICU：集中治療専門の医師等がネットワーク通信を利用して複数の集中治療室の医療情報を集約し、患者モニタリングや遠隔地から現場の医師等へのサポート等を行う。

③【附・セ】重症系病床の拡充に向けた工事の実施（＊重点）	③【附】重症系病床（HCU）を 21 床へ拡充する改修工事を実施した。 【セ】本館 3 階 GHCU 2 床増床する改修工事を実施した。
④【附・セ】先進医療申請の可能性のあるものについて、早期に厚生労働省の先進医療事前相談を受け、研究計画書作成を実施	④【附】先進医療 B（協力機関）の申請を 1 件実施し、8 月に受理された。2 月に先進医療 A の開始準備について相談を受け、施設要件の確認を実施、申請の準備を進めた。 【セ】先進医療 A の申請を 1 件実施し、3 月に受理された。その他、先進医療 A 2 件の申請のため施設基準要件にある症例数の実施を進めている。
⑤【附】臨床研究中核病院の承認要件を維持できる研究力を保持することを目指し、研究実施体制や研究支援体制の拡充策を検討し施行（VI地）	⑤【附】SD 評価に臨床研究にかかる項目を加え、研究者のモチベーション向上を促進した。 ・次世代臨床研究センターでは、新たにミッション・ビジョンを策定し、各室の機能の再整備、人材配置の最適化を推進した。一方で、臨床研究中核病院の承認に向けては、人員体制についてさらなる検討が必要となる。 ・YCU 共創イノベーションセンターの設立により産官学連携及び外部資金獲得による研究活動が活性化した。 ・次世代臨床研究センター、YCU 共創イノベーションセンターの協働により、研究シーズの発掘、研究費申請等から臨床研究のサポートまでシームレスな研究者支援を実現した。
⑥【附・セ】クオリティインディケーターに基づく医療の質の向上（VI地） （＊中期）	⑥【附】臨床評価指標の算出結果を集約し、課題共有ミーティングや委員会で説明・内容の確認や Web サイトへの収載を行った。 【セ】「医療の質可視化プロジェクト」に参加し、データを提出した。また、臨床指標の分析結果を Web サイトに公開した。
定量的指標	
⑦手術件数（VI地）（＊中期）：【附】7,500 件/年 【セ】9,400 件/年	⑦【附】7,642 件/年 【セ】9,761 件/年

⑧先進医療申請のための先行研究着手件数（Ⅵ地）（＊中期）： 【附】 1 件/年 【セ】 1 件/年	⑧【附】 2 件/年 【セ】 1 件/年
⑨救急応需率（Ⅵ地）（＊中期） 【附】 90%/年【セ】 90%/年（三次救急）、85% /年（二次救急）	⑨【附】 92.9%/年 【セ】 97.5%/年（三次救急）、93.6%/年（二次救急）

特記事項
・【附】指標②遠隔 ICU 事業について、困難を極めた医師少数地域への支援先決定を達成した。 ・【附・セ】指標⑦手術件数について、手術枠の効率的な運用や見直し等を行い、年度計画を上回った。 ・【附・セ】指標⑨救急応需率について積極的な取組により、過去 5 年間最多件数となり年度計画を上回った。センター病院では、市内唯一の高度救命救急センターとして重症外傷患者を積極的に受入れし、E ラインを介した三次救急適応の重症患者受入れを例年同様積極的に行った（令和 7 年 3 月時点応需率 97.5%、1,345 件）。二次救急については、E R 部が中心となり、市内外の急性期病院や救急隊からの患者の受入要請に応えた。 4～3 月の救急専用回線応需率は 93.6%（3,548 件）で、おおむね 9 割前後の応需率を保っている。 これらの実績から A 評価とした。

Ⅲ 医療

2 質の高い医療の提供

中期計画	【22】医療の国際化への対応	自己評価	【附】B 【セ】B
------	----------------	------	-----------

市内の外国人患者は今後も増加が見込まれ、附属2病院の統合・再整備の候補地においても在住外国人が多く見込まれることから、外国人患者を円滑に受け入れるため、環境の整備を進めていく。センター病院ではJ M I P 認証（外国人患者受け入れ医療機関認証制度）に向けての取組を進める。

【主な指標】 ◆外国人患者のニーズに対応した環境の整備

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①【セ】J M I P 対策WGの運営（Ⅶグ）	①【セ】JMIP 対策のWGを実施し、次年度、附属2病院ともにJMIPを受審し認証取得を目指す方針を決定した。
②【附・セ】外国人患者のニーズに対応した環境の整備（Ⅶグ）（＊中期）	②【附】遠隔医療通訳タブレットを新たに1台設置した。またマニュアルの見直し等、使用環境の整備を行い、タブレットの利用が促進された。 【セ】外国人患者のニーズから1階患者相談窓口に通訳窓口を置き、スムーズに外国人患者対応ができる体制を整えた。

Ⅲ 医療

3 政策的医療への貢献、地域医療の推進

中期計画	【23】政策的医療の推進	自己評価	【附】B 【セ】A
------	--------------	------	-----------

市、県及び地域医療機関との連携関係のもと、政策的医療（周産期・小児・生殖・精神・救急・がん・災害時医療等）においても、高度で先進的な医療を提供する中心的な存在であり続ける。あわせて、附属2病院で連携して、他の医療機関では対応できないような緊急性及び重症度が高い患者を中心に救急患者の受入れを積極的に行い、地域における「最後の砦」としての役割を果たす。

【主な指標】

◆救急応需率：【附】90%【セ】90%/最終年度 ◆不妊治療件数¹²：【セ】男性 250 件、女性 215 件/最終年度

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①【附・セ】地域がん診療連携拠点病院として、神奈川県がん診療連携協議会及び各部会に参加し、院内への情報発信や情報共有の実施（Ⅵ地）	①【附・セ】神奈川県がん診療連携協議会及び各部会に参加し、連携病院で意見交換や情報共有を行った。
②【附・セ】附属病院とセンター病院の新たながんゲノム連携体制による更なるゲノム医療の推進（Ⅵ地）（＊新規・重点）	②【附・セ】2病院でがんゲノム連携体制を構築し、毎週月曜日（祝祭日を除く）に2病院が連携してエキスパートパネル ¹³ を開催し、症例の検討を行った。
③【附・セ】「災害拠点病院」として、DMAT隊員を中心とした現場医療救護活動の実施（Ⅵ地）	③【附】都心南部直下地震を想定した大規模地震時医療活動訓練に参加し、当該活動に係る組織体制の機能と実効性に関する検証を行うとともに防災関係機関の相互協力の円滑化を図った。 【セ】DMAT 隊員養成研修や技能維持研修等に参加した。国や県が開催する災害訓練（大規模地震時医療活動訓練）にDMATインストラクターとして企画側へ参画し

¹² 不妊治療件数：男性は精索静脈瘤手術、精巣内精子採取術。女性は融解胚移植件数

¹³ エキスパートパネル：がんゲノム検査の検査結果を解釈するための、多職種の専門家を含む会議

	た。隊員の技能維持・向上に努め、災害拠点病院の対応力向上を図った。
④【セ】神奈川県周産期救急医療システムの基幹病院として、緊急性や重症度の高いハイリスク妊産婦及び新生児の受入れの実施（Ⅵ地）	④【セ】総合周産期母子医療センターは、市内唯一の妊娠 22 週目の出産に対応可能な医療機関として、母体又は胎児に対するリスクの高い患者及び救急患者の受入れを積極的に行った。
定量的指標	
⑤救急応需率（Ⅵ地）（＊中期）（再掲【21】）：【附】90%/年【セ】90%/年（三次救急）、85%/年（二次救急）	⑤【附】92.9%/年 【セ】97.5%/年（三次救急）、93.6%/年（二次救急）
⑥不妊治療件数（Ⅵ地）（＊中期）：【セ】男性 205 件/年、女性 195 件/年	⑥【セ】男性 209 件/年、女性 267 件/年

特記事項	
【セ】指標⑥不妊治療件数について年度計画を上回り、病院全体の手術件数増にも貢献したため、A 評価とした。	

Ⅲ 医療

3 政策的医療への貢献、地域医療の推進

中期計画	【24】地域医療への貢献	自己評価	【附】A 【セ】B
------	--------------	------	-----------

市や県の地域包括ケアシステムを踏まえながら、地域の医療機関との紹介・逆紹介のさらなる推進により連携強化・機能分化を進め、在院日数や外来患者数の適正化につなげる。さらに、高齢社会の進展に伴い、患者が住み慣れた地域で安心して退院後の生活が送れるよう支援を図る。

また、附属2病院統合を見据え、二次医療圏¹⁴の横浜市のみならず、三次医療圏¹⁵の神奈川県においても高度な治療を必要とする患者に貢献する病院を目指していく。あわせて、高度・先進的な治療実績、研究成果等を市民や他の医療機関へ積極的に発信し、地域のニーズに合った医療講座や研修・実習を提供することで、市民の医学知識の向上と健康意識の啓発・促進を図りつつ、地域の医療機関等との連携を促進していく。

【主な指標】

- ◆紹介割合：【附】90%【セ】100%/最終年度 ◆逆紹介割合：【附】60%【セ】50%/最終年度
- ◆外来初診患者数：【附】160人/日【セ】177人/日/最終年度 ◆新入院患者数：【附】18,000人【セ】20,200人/最終年度
- ◆D P C入院期間Ⅱ以内の退院割合（再掲）：【附】76%【セ】75%/最終年度

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①【附・セ】訪問や研修等を通じた病病連携の強化による医療機能分化の推進（Ⅵ地）	①【附】医療機関訪問件数：73件（うち医師同行60件）、地域連携セミナー4回（参加人数38人）、メーカー共催・後援研修会8回 【セ】医療機関訪問件数：127件（うち医師同行48件）、地域医療連携研修会52回（参加人数2,085人）

¹⁴ 二次医療圏：救急医療を含む一般的な入院治療を提供する医療圏

¹⁵ 三次医療圏：精神病棟や感染病棟、結核病棟などの専門的な医療、または高度で先端の医療を提供する医療圏

②【附・セ】2病院の新 Web サイトの S E O やユーザビリティに係る効果測定による広報機能の強化（VI 地）	②【附】リニューアル前後における同時期の 1 年間を比較した結果、表示回数※が 12.64%、アクティブユーザーあたりの平均エンゲージメント時間※が 16.5%増加した。 ※表示回数：当院の全 Web ページが表示された回数 ※アクティブユーザーあたりの平均エンゲージメント時間：アクティブユーザーがウェブサイトを開いて実際に見ている、操作している平均時間 【セ】Web 制作会社からの効果測定レポートを参考にする等、2 病院・広報担当と Web サイトリニューアル後の課題を共有しながら広報強化を行った。診療科ページを中心とした更なる魅力づくりに取り組んだ。
--	--

定量的指標	
③紹介割合（VI 地）（＊中期）：【附】87%/年 【セ】100%/年	③【附】88.2%/年 【セ】96.3%/年
④逆紹介割合（VI 地）（＊中期）：【附】52%/年 【セ】50%/年	④【附】58.1%/年 【セ】54.9%/年
⑤外来初診患者数（VI 地）（＊中期）：【附】160 人/日 【セ】183 人/日	⑤【附】163 人/日 【セ】172 人/日
⑥新入院患者数（VI 地）（＊中期）：【附】18,000 人/年 【セ】19,530 人/年	⑥【附】18,906 人 【セ】19,893 人
⑦ D P C 入院期間Ⅱ以内の退院割合（VI 地）（再掲【20】）（＊中期）： 【附】76%/年 【セ】75%/年	⑦【附】76.2% 【セ】74.4%

特記事項
・【附・セ】指標⑥新入院患者数について年度計画を上回った。附属病院は、中期計画の指標を上回り、過去 5 年間で最多の新入院患者数となった。 ・【附・セ】指標④症状が安定した患者について積極的な逆紹介を行い、近隣医療機関との適切な役割分担を図ることで、地域における医療機能の連携と最適化を推進した。 ・【セ】指標①医療機関訪問は、年間目標 100 件に対し 127 件の訪問を実施し、医師間の信頼関係の構築や患者情報の円滑な共有を実現した。 これらの実績から附属病院は A 評価、センター病院は B 評価とした。

Ⅲ 医療

4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用

中期計画	【25】医療人材の育成	自己評価	【附】B 【附】B
------	-------------	------	-----------

高度化・複雑化する医療への対応を図るため、看護師・コメディカルのスキル向上に向けた取組を進める。

研修医においては、シームレスな教育研修体制を意識し、良質で魅力的な研修プログラムを整備することで、全国から優秀な医学生を確保する。本学の研修プログラムを通じて育成された医療人材が将来的に横浜市医療に貢献できるよう、基幹型臨床研修病院として積極的に地域の医療機関での研修も進めていく。

また、看護師等においては、附属2病院と看護学科・学科専攻が臨床（看護の実践）・人材育成・教育・研究・地域貢献の各分野において、交流と連携を強め、個々の取組を一体的に進める。

【主な指標】

◆特定行為研修を修了し、当該特定行為に従事する看護師：【附】6名 【セ】12名/最終年度

◆初期研修医のマッチング率：【附】100%【セ】100%/年

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①【附・セ】高度化・複雑化する医療に対応するため、質の高い看護師・コメディカルの育成（VI地）	①【附】看護師は、YCU-N¹⁶キャリアラダーを用いて、看護実践力の向上を図った。また、各分野における専門・認定看護師等を育成し、医療チーム等への参画により組織横断的な役割を担った。退院支援機能及び患者サポートセンター機能の強化を目的に、地域の訪問看護ステーションへの看護師の出向を実施した。コメディカルは次年度実施に向けて、各職種で策定したキャリアラダーに該当する研修計画の準備を進めた。 【セ】入職後まもない看護師・コメディカルを対象に院内の医療安全や感染対策の研修を実施したほか、コメディカルを対象に外部講師によるマナー研修を実施

¹⁶ YCU-N：本学が目指す看護職のジェネラリスト育成計画。5段階で構成され、3段階目までに基本的な看護の実践ができることを目指し、4段階目以降はそれぞれのニーズに応じたキャリア育成のためのプログラムを行う。

	した。 看護部では、附属 2 病院・看護学科との連携事業を実施した。また国際交流の一環として、海外からの研修生や見学者の受け入れを 2 件実施した。
②【附・セ】専攻医及び臨床研修医の確保と育成（Ⅵ地）	②【附】11、1 月に JMECC（内科救急・ICLS 講習会）を開催。2 月に指導医養成講習会を開催した。毎月の研修委員会や毎週の担当者ミーティングにて、研修医の教育支援体制についての協議を行い、医科・歯科どちらも全員修了認定が得られた。 【セ】指導医による定期的なセミナー開催や、担当制によるクラス担任面談（年 2 回）を実施した。
定量的指標	
③特定行為研修を修了し、特定行為に従事する看護師（Ⅵ地）（＊中期）【附】3 名/年【セ】 2 名/年	③【附】3 名/年 【セ】2 名/年
④初期研修医のマッチング率（Ⅵ地）（＊中期）【附】100% 【セ】100%	④【附】100% 【セ】100%
⑤初期臨床研修医マッチング登録者数（Ⅵ地）（全国大学附属病院）【附】5 位以内【セ】5 位以内	⑤【附】5 位 【セ】4 位
⑥臨床実習指導者講習会の受講者数（Ⅵ地）【附】1 名/年【セ】8 名/年	⑥【附】8 名/年 【セ】7 名/年

特記事項

【附・セ】全国から多数の入局希望者を受け入れ、医療人材の育成と地域への輩出に積極的に取り組んでいる。

※参考：常勤医師派遣数 2,099 名、非常勤医師派遣数 1,406 名（令和 6 年 4 月時点）

IV 法人経営

1 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化

中期計画	【26】ガバナンス強化	自己評価	B
------	-------------	------	---

理事長・副理事長のトップマネジメントのもと、全教職員が一丸となって中期計画の達成に向けた取組及び経営改革を確実に推進する土台として、コンプライアンスの推進、内部統制の確立をはじめとするガバナンス強化に取り組む。また、透明性を確保するため、法人に関する情報は引き続き適切に開示する。

【主な指標】 ◆「公立大学ガバナンス・コード」に基づく体制の推進

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①「公立大学ガバナンス・コード」に基づく体制の推進（理事長直轄の「監査室」設置）（＊中期）	①令和 6 年度 4 月に理事長直轄の監査室を設置し、どの部門からも独立し公平に全法的な立場で内部監査を行うことが可能となった。令和 6 年度については、研究費が適切に執行されているかについて監査を実施した。また、内部通報制度について、令和 7 年度から法人外窓口のほかに新たに法人内窓口を設置し、事務局から独立した監査室が当該窓口を担うこととなった。
②法人に関する情報の適切な開示の継続	②中期計画・年度計画、業務実績報告書及び財務諸表をはじめとした財務情報や、教育・研究にかかわる主要なデータを本学 Web サイトに公開した。
③「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」への参画等による S D G s 推進	③計画どおり実施した。
定量的指標	
④コンプライアンス推進委員会の開催：2 回/年	④2 回/年(10 月、3 月)
⑤内部通報制度委員会の開催：2 回/年	⑤2 回/年(6 月、11 月)

IV 法人経営

2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

中期計画	【27】DX 推進及び業務改善	自己評価	B
------	-----------------	------	---

教職員が限られた時間でより効率的に業務に携わることができるように業務や手続きを見直し、それに対応した事務システム等の構築をする。

また、個別最適化された学修指導や戦略的な研究支援などを実現するための教育・研究関連データの集積と分析の仕組みを整備する。それらを支えるネットワーク基盤を含めた安全なインフラ環境を整備する。

【主な指標】◆DXの方針に基づく業務改善の推進

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①DXの方針に基づく業務改善の推進（＊中期）	①AI等を活用した経営改善ワーキンググループを組織し、今後の改善に向けた2年に渡る取組内容を定めた。
②LMS「YCU-Board」の目標設定及び振返り機能の活用促進（＊重点）（再掲【7】）	②新たな取組として、説明会とオリエンテーション内での目標記入の呼びかけを行い、前期は44.0%まで目標記入率が上昇した（令和5年度前期30.1%）。また、令和7年度に向けて学生・教員双方の負担軽減や利便性を高めるための仕様変更と機能改修を行った。
③研究DXにおける研究データの管理・公開に関する運用体制の整備	③学内の各種データの一元管理を可能とする研究者データベースシステムを導入した。また、教員情報をまとめた外部公開ページを改修し、視認性・検索性が向上した。
④Web決済の推進	④計画どおりWeb決済システムの運用を全キャンパスで推進した

IV 法人経営

2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

中期計画	【28】 自律的な運営に資する外部資金獲得施策の実施	自己評価	C
------	----------------------------	------	---

外部資金のさらなる獲得に向けて、研究費については、研究者が効率的・効果的に研究できるよう研究支援体制を強化し、国の研究費や民間企業との受託・共同研究費などの積極的な獲得に努める。寄附については、戦略に基づき、法人トップ（理事長、学長等）とファンドレイザーが先頭に立って渉外活動を行い、法人の特長を活かした大型寄附や継続寄附を教職員一丸となって獲得を目指す。また、周年寄附事業等では、目標達成（20 億円以上）を目指し、法人内の寄附意識の浸透を図る。

【主な指標】

◆科研費獲得金額（再掲）：第 3 期の実績 5 %増/期間中（累計目標：5,977 百万円）

◆寄附獲得額：20 億円/期間中

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定量的指標	
①科研費獲得金額（再掲【15】）（＊中期）：1,992 百万円/5～6 年度累計（進捗率 33.3%）	①2,129 百万円／5～6 年度累計（進捗率 35.6%）
②寄附獲得額（＊中期） 500 百万円/5～6 年度累計（進捗率 25%）	②285 百万円/5～6 年度累計（進捗率 14%）

特記事項

指標②の未達成により C 評価とした。

IV 法人経営

2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

中期計画	【29】法人全体の効率的かつ効果的な運営	自己評価	C
------	----------------------	------	---

市における厳しい財政状況を勘案しつつも、自律的かつ持続可能な法人経営を実現するため、外部資金のさらなる獲得、管理する拠点（キャンパス）等のあり方の検討、学部・研究科ごとの評価指標及び特徴等の整理、企業連携、DX推進などの経営改革に法人全体で中長期的な視点で取り組む。

【主な指標】◆経営改革に資する取組の推進

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①経営改革に資する取組の推進（＊中期・重点）	①法人幹部で構成する「改革推進会議」を中心に、大学部門の収入拡充・支出削減に向けた事業見直しを行うとともに、附属2病院では、病院長のマネジメントのもと経営改善を実施した。附属2病院では前年度比約13億円の収支改善となったが、大学部門では前年度比約7億円の収支悪化となり、法人全体では約15.2億円（経常損失）の赤字決算となった。
②文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」によるデータサイエンス学部・データサイエンス研究科の機能強化（学部・研究科あり方PJ）（＊重点）	②データサイエンス学部・研究科の収容定員増を見据えて、教育課程の構想検討し、履修プログラムの改定素案が完成した。また、新規教員採用及び学内教員公募、ならびに施設改修を進めた。本学の教育研究の基軸の一つとなるデータサイエンス学部・研究科の体制強化・教育研究環境整備を進めることができた。
③「地域中核・特色ある研究大学」に向けた目標管理の実施（地域中核事業推進PJ）（＊重点）	③地域中核事業推進PJ内でPMO（Project Management Office）機能を試行し事務組織横断の体制で課題解決の進捗管理を行った。地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）の採択に至った。

④教育・研究・医療・事務の各分野のD X推進に向けた目標管理の実施（D X推進PJ）（＊重点）	④DX 推進 PJ を経営改善 PJ として再編し、経営に資する業務改善・運用改善の課題共有と取組の進捗管理を行った。
⑤【附・セ】経営に関する会議を開催し、各病院の課題解決と経営安定化に向けた取組の推進（再掲【20】）（＊重点）	⑤【附】「病院機能変革プロジェクト」を設置し、病院運営上の課題解決と経営の安定化に取り組んだ。コマンドセンターの導入によって病床管理の効率化が図られた。また、コマンドチームを設立し、経営改善に向け取組を推進した。 【セ】経営戦略会議を開催し、病院の課題解決に向けて議論した。また、経営改善に資する講演会の開催や、他病院の視察・比較分析を行った。

特記事項
指標①について、法人全体で経営改善に取り組むも、令和6年度決算について法人全体で約 15.2 億円（経常損失）の赤字となったため、C 評価とした。

IV 法人経営

3 コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立

中期計画	【30】コンプライアンスの推進	自己評価	B
------	-----------------	------	---

教職員一人ひとりのコンプライアンス意識を高めるため、注意を喚起する通知の時宜に応じた発出や教職員の目に触れやすい媒体を活用したコンプライアンス関連の啓発、事例研究等を中心とした効果的な研修等を実施する。

また、過去の情報漏えい事案を教訓とし、再発を防ぐ取組（個人情報取扱注意強化月間）や、個人情報の適正な取扱いが行われるよう継続的に研修を実施するなど、個人情報保護にかかる教職員の意識醸成を確実に進める。さらに、内部不正も含めた情報セキュリティ向上のため、学内情報資産の一元管理化等を実施する。

【主な指標】◆時宜に応じたコンプライアンスに係る啓発活動の実施

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①時宜に応じたコンプライアンスに係る啓発活動の実施（＊中期）	①「コンプライアンスマインド」通信を年10回配信し、時宜に応じたコンプライアンス意識向上への啓発活動を行った。
②個人情報取扱注意強化月間の設定	②7月を個人情報取扱注意強化月間として研修、各種学内広報誌へのチラシ掲載など注意喚起・啓発活動を行った。
③内部通報制度の適正な運用	③通報窓口を見直し、より効果的な制度に変更するとともに経費の削減につなげた。
定量的指標	
④コンプライアンス関連通知の発出：3回/年	④5回/年
⑤コンプライアンス関連研修の実施：3回/年	⑤3回/年（4月、7月、1月実施）
⑥情報セキュリティ研修の実施：2回/年	⑥2回/年（全教職員対象の情報セキュリティ研修・模擬メール訓練）

IV 法人経営

3 コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立

中期計画	【31】リスクマネジメント・危機管理	自己評価	B
------	--------------------	------	---

既に各拠点、所属で運用している自己点検の仕組みを体系化し、内部統制システムとして一体的に運用することで、法人業務を阻害するリスク全般への対策等について適切な組織的共有を図るとともに業務の適正な執行を確保する。学生・教職員の安全確保に向けた体制の強化を図るため、防災意識の向上及び危機発生時の対応力の強化を目的とした効果的な訓練を実施し、感染症の流行や自然災害などに備えてBCPを定期的に見直す。

【主な指標】◆内部統制システムに基づく業務の適正な執行

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①内部統制システムに基づく業務の適正な執行（＊中期）	①顕在化したリスクである事務処理ミス等及び事件・事故に係る報告の集約・共有を行うとともに、潜在的リスクへの対応としてリスクマップの更新を行った。
定量的指標	
②防災訓練の実施：大学5回/年【附】5回/年【セ】5回/年	②防災訓練の実施 【大学】8回/年 【附】10回/年 【セ】9回/年

IV 法人経営

4 教職員エンゲージメントの向上

中期計画	【32】人材の育成と活用	自己評価	B
------	--------------	------	---

社会情勢の変化に柔軟に対応できる法人経営を実現するため、すべての教職員が持てる力を最大限発揮し、学び合い、支え合う組織風土を醸成するとともに、時代のニーズを捉えた研修の実施や適材適所の人員配置、法人の実態にふさわしい人事制度の構築と不断の見直しによって、高度な専門性を有する人材を育成する。

【主な指標】 ◆教職員意識調査（人事制度・キャリア形成関連）：評価 2.2 点以上 4 点満点

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①人材育成研修の実施（＊重点）	①職位に応じた研修を拡充し、実施した。
②ニーズに沿った職員研修の実施（＊重点）	②Office 等のスキル研修のほか、新たに開示請求研修を実施した。
③【附・セ】病院経営に資する人材育成の推進のため、「YCU 医療経営・政策プログラム」や「ソーシャル・イノベーション研究プログラム（S I M B A）」の履修支援	③【附】「YCU 病院経営プログラム」に 6 名（医師 5 名、看護師 1 名）が受講 【セ】「YCU 病院経営プログラム」に 3 名（医師・看護師・コメディカル各 1 名）が受講
④【附】各部のキャリアプランに沿った院内外における研修・セミナーの履修支援	④【附】研修・セミナー参加に関する費用を公費で支出し、受講を促進した。700 件弱の研修費・学会費を補助し、職員のスキル向上を支援した。
⑤【附・セ】管理職向けに病院経営を学ぶ外部研修（病院経営者育成塾等）への参加の推進	⑤【附】病院経営者育成塾に係長級 1 名が参加している。また、附属 2 病院合同で、新採用及び異動の事務職員を対象に病院経営に関する「病院事務職員基礎研修」を開催した。 【セ】神奈川県主催のトップマネジメント研修などの受講勧奨を行った。
⑥教職員意識調査（人事制度・キャリア形成関連）（＊中期） R7 に実施	⑥令和 7 年度に実施

IV 法人経営

4 教職員エンゲージメントの向上

中期計画	【33】教職員が生き生きと働くための組織風土の醸成	自己評価	A
------	---------------------------	------	---

全ての教職員が誇りや充実感を持って働くことのできる環境の実現に向け、ライフステージに応じた柔軟な働き方を構築し、健康保持の増進などに取り組む。また、学生・教職員がお互いに多様性を認め合うとともに、多文化共生の推進や、障害者雇用の充実などに取り組む。附属2病院においては、医師の働き方改革等へ対応するために、引き続き、タスクシフト・タスクシェアなどを推進する。

【主な指標】

- ◆教職員意識調査（ダイバーシティ推進関連）：評価 2.7 点以上/4 点満点
- ◆障害者雇率：法定雇用率以上/年
- ◆配偶者の出産に伴う休暇（3 日以上）の取得率：100%/年
- ◆医師事務作業補助者数：【附】44 名（15 対 1 加算 I）【セ】43 名（15 対 1 加算 I）/期間中

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①ダイバーシティ推進計画の教職員や学生への周知及び関連情報の発信（VIIグ）	①【男女共同参画推進】配偶者の出産に関連する休暇の取得勧奨を通知し、各教授会等で周知を行ったほか、対象者へ個別に案内した。女性経営者を招き、女性リーダー活躍研修を実施した。 【働き方改革、ワーク・ライフ・バランスの推進】年次休暇取得推進について通知し、取得の少ない職員へ個別に働きかけた。 【多様性を尊重した構成員支援】学生参加により作成した多様性尊重の啓発ポスターを掲示した。LGBTQ 関連の展示（図書館所蔵資料や「現代社会とジェンダー」ゼミ所属の学生による資料紹介、ポスター・相談窓口案内の掲出、相談窓口カードの配布）を学内 2 か所で実施した。LGBTQ に関するリーフレットを学内イントラで掲載し、教授会で周知した。

②法定雇用率引上げに向けた、障害者の配属職場の新規開拓	②今まで障害者配属の無かった6つの部署に、新たに障害者を配属した。
③【附・セ】病院職員の労働環境向上への体制づくり、取組の推進・実施	③【附】院内保育所の一時保育と曜日限定保育の利用枠を統合し、利用要件や1日あたりの定員数も見直した結果、医療従事者がそれぞれの勤務形態に合わせて柔軟に保育所を利用できるようになった。また、キャンセル料期日の緩和など職員がより利用しやすい仕組みづくりについて検討を進め、令和7年度からの施行を予定している。 【セ】新体制での「診療支援部」のもと、医療事務作業補助者の採用確保や医療事務作業補助者業務の拡充等により医師の負担軽減を推進したほか、多職種へのタスクシフト・タスクシェアを推進するなど医療従事者が働きやすい環境を整備した。
④【附・セ】医師の働き方改革の着実な推進・実施（＊重点）	④【附・セ】医師事務作業補助者等他職種へのタスクシフト・シェア、各診療科部長宛に時間外・休日労働時間実績の配信と部長会での情報共有、補助金を活用した勤務環境改善等を実施した。結果として、年間の上限規制（1,860時間）を超える医師は発生せず目標を達成した。
⑤【附・セ】医師の事務作業負担軽減の推進のため、上位区分の医師事務作業補助体制加算の取得	⑤【附】医師事務作業補助者を専門職化し、処遇改善を行った。令和8年度の上位加算の取得を目指し、採用活動・人材確保を進めた。 【セ】上位区分の15対1を4月に届け出た。
⑥教職員意識調査（ダイバーシティ推進関連）（Ⅶグ）（＊中期） R7に実施	⑥令和7年度に実施
定量的指標	
⑦離職率：看護職（1年以内）10%以下/年、看護職以外（3年以内）10%以下/年	⑦看護職（1年以内）14.7%/年、看護職以外（3年以内）12.0%/年

⑧障害者雇用率（＊中期）：2.8%/年（法定雇用率）	⑧2.81%/年
⑨配偶者の出産に伴う休暇（3日以上）の取得率（＊中期）：100%/年	⑨79.2%/年（令和５年度実績から25.4ポイント増加した） ※令和５年度53.8%、令和４年度34.0%
⑩ダイバーシティ推進計画関連情報周知（Ⅶグ）：3回/年	⑩3回/年（LGBTQ展示・今年度の取組・多様な性について周知）
⑪医師事務作業補助者数（＊中期）：【附】32名　【セ】44名	⑪【附】34名　【セ】46名

特記事項

- ・指標④について、附属病院・センター病院で、それぞれ医師の働き方改革を着実に進めた。
- ・指標⑦離職率、配偶者の出産に伴う休暇取得率の指標が未達成となったが、配偶者の出産に伴う休暇取得率は79.2%となり、前年度53.8%から改善した。
- ・新たに軽装勤務の通年化、時差勤務・テレワークの範囲拡大（大学部門）を実施し、エンゲージメント向上に資する取組を進めた。また、ストレスチェックの集団分析で、法人全体での総合健康リスクが昨年度より改善した。（主に上司・同僚の支援に関する項目が改善）

IV 法人経営

5 YCU の価値向上

中期計画	【34】 創立 100 周年事業の実現	自己評価	B
------	---------------------	------	---

創立 100 周年記念事業プロジェクトを推進し、令和 10 年の記念式典の開催と百年史の発刊を行う。

また、百年史の制作過程の可視化や各記念事業プロジェクトにおける情報発信などを通じ、学内の教職員のみならず学生や卒業生、企業といった学内外のステークホルダーにも認知されることで 100 周年に向けた機運醸成を図る。

【主な指標】 ◆創立 100 周年記念事業プロジェクトの実施

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①創立 100 周年記念事業プロジェクトの実施（＊中期）	①・創立 100 周年実行委員会を 6 回開催した。 ・取組内容を精査し、厳しい経営状況を考慮したロードマップに改訂した。 ・駅前での代替案内掲示により京急金沢八景駅の広告を廃止し、支出を削減した。 ・学生企画として 100 周年記念動画を制作し、学内外での機運醸成に貢献した。 ・百年史 Web サイトを公開した。
定量的指標	
②講演会開催件数：2 回/年	②5 回/年（イベント開催件数含む）
③百年史・関連リーフレット発刊回数：2 回/年	③ 3 回/年（本学歴史紹介リーフレット 2 回、100 周年 PR リーフレット 1 回発刊）

IV 法人経営

5 YCU の価値向上

中期計画	【35】卒業生連携	自己評価	B
------	-----------	------	---

周年事業を契機として卒業生との連携の在り方を社会連携の一環として捉え直し、単なる親睦の場ではなく、卒業生の力（経験や知識、寄附）を活かして大学の発展に貢献するための環境整備を全学で推進する。あわせて、キャリア支援やリカレント教育など卒後も大学とつながるメリットを卒業生が感じられるような取組を進める。

【主な指標】 ◆卒業生と大学のつながりを強化する取組の実施

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①卒業生と大学のつながりを強化する取組の実施（Ⅵ地）（＊中期）	①卒業生向け「YCU 通信」の発行や同窓会組織との連携を実施した。
定量的指標	
②卒業生と大学とのつながりを強化するためのイベント開催（Ⅵ地）：4 回/年	②5 回/年（ホームカミングデー等卒業生と連携したイベント）

IV 法人経営

5 YCU の価値向上

中期計画	【36】横浜市と連携したグローバルネットワークの構築	自己評価	B
------	----------------------------	------	---

これまでの交流実績を踏まえ、学生のニーズを反映した海外協定校との質の高い交流を実施する。

また、アカデミックコンソーシアム¹⁷の活動や国際都市横浜ならではのグローバルな視野が培われる交流や体験の機会を創出することで国際交流活動を推進するとともに、様々な取組を海外大学や外国人留学生に向けて広報発信し、グローバルネットワークの構築を図る。

【主な指標】 ◆横浜市と連携した国際交流活動の実施件数：7件/年

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定量的指標	
①横浜市と連携した国際交流活動の実施件数（Ⅶグ）（＊中期）：7件/年	①8件/年
②世界大学ランキング500位以内の海外大学と交流を実施する協定数（Ⅶグ）：3校/年	②4校/年（UK・ポーツマス大学、豪・キャンベラ大学、オランダ・トゥウェンテ大学、ドイツ・ヴュルツブルク大学）

¹⁷ アカデミックコンソーシアム：アジアトップ大学と協働で都市の課題解決を目指す国際学術ネットワーク

IV 法人経営

5 YCU の価値向上

中期計画	【37】 戦略的広報の展開	自己評価	B
------	---------------	------	---

本学の優れた取組や魅力を、ステークホルダーに向け分かりやすく、かつ的確に発信するための広報戦略を整備し、発信力を強化する。これにより、創立 100 周年に向けて、大学の認知度を更に高め、法人の持続可能な経営基盤強化等につなげていく。

【主な指標】 ◆広報戦略の策定及び推進

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①広報戦略の推進（＊中期）	①令和 5 年度に策定した広報戦略に基づき、具体的な取組や広報の留意点について、広報委員会等で検討した。
②研究成果の国内外への情報発信	②研究成果に関するプレスリリース（国内 88 件、海外 2 件）、記者会見（1 件）を行った。
③教職員の広報マインドの醸成	③教職員一人ひとりが広報パーソンとなり効果的な情報発信に取り組むために、広報基礎研修（11/29：参加者 29 人）、広報力アップ！伝わるデザイン＆プロモーション研修（3/19：参加者 17 人）を実施した。
定量的指標	
④プレスリリースメディア 掲載率 90%/年	④93.6%/年 ※プレスリリース配信サイト掲載含む

IV 法人経営

6 課題解決を目指した地域社会との協働の推進

中期計画	【38】コーディネート機能の強化による地域連携の推進	自己評価	B
------	----------------------------	------	---

地域の行政・団体・企業等の地域主体と本学とが、研究・教育活動において連携・協働するために、地域貢献センターが相談窓口となり、地域と大学をつなぐ仕組みづくりとマッチングを推進し、地域ニーズに応えていく。

また、コーディネーターを活用した連携を一層促進するとともに、E B P Mの取組を推進する横浜市のシンクタンク機能としての役割を果たすため、データサイエンス等の専門的知見を活用する。

【主な指標】

◆地域貢献センター相談対応件数：60 件/最終年度 ◆市の施策立案等に関わる連携取組件数：50 件/期間中

令和 6 年度計画（指標）		令和 6 年度実績
定性的指標		
①コーディネーターを中心とした連携調整の推進（VI地）		①横浜市の会議体やメールマガジンを通じ、コーディネーターの活動周知を行った。 また、メールマガジンの市役所イントラネットへの掲載を開始した。
定量的指標		
②地域貢献センター相談対応件数（VI地）（＊中期）	46 件/年	②71 件/年
③市の施策立案等に関わる連携取組件数（VI地）（＊中期）	34 件/年	③38 件/年

IV 法人経営

7 医学部・病院等再整備事業を見据えた取組の推進

中期計画	【39】 附属 2 病院における連携の推進及び経営基盤の強化	自己評価	【附】 A 【セ】 A
------	--------------------------------	------	-------------

新たな診療報酬体系への対応を図るほか、附属 2 病院間の連携を強化し、各々の強みや特色を活かした診療を行い、診療機能に見合った収益を確保していく。物品調達等をはじめとする附属 2 病院間の協働を強化し、共通化や共同購入を進めることで、コストを抑制する。

また、附属 2 病院と医学部が、診療・教育・研究の各分野において交流と連携を一層強め個々の取組を一体的に進めていくことで、相乗効果を最大限発揮する。

【主な指標】 ◆附属 2 病院の協働による取組の推進

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①【附・セ】診療報酬の適切かつ確実な請求の実施及び施設基準の随時見直しによる上位区分の取得・新規施設基準の積極的取得	①【附】医学管理料は約 3,400 万の増収、麻酔管理料は約 2,000 万増収となった。 【セ】・令和 6 年度診療報酬改定（6 月）に適切に対応し、新設された小児・周産期・精神科充実体制加算、救急患者連携搬送料等を届け出た。 ・手術の時間外等加算 1（一部診療科、10 月）、報告書管理体制加算（12 月）、医療 DX 推進体制加算（12 月）、総合機能評価加算（2 月）等を届け出た。 ・既存の加算についても算定強化を図り、救急医療管理加算 9,800 万円の増収、入退院支援加算 4,100 万円の増収となった。
②【附・セ】経営改善に向けた経営指標の活用	②【附】各種経営指標を基に診療科毎の目標を設定し、年 2 回の病院長ミーティングを行った。また、課題のある診療科を抽出の上、8 月と 2 月に臨時病院長ミーティングを実施し、経営改善に向けた具体的な取組の共有・意見交換を行った。国立大学病院管理会計システムを活用し、ベンチマーク分析を行った。また、ユーザー勉強会への参加し分析内容の発表を行った。 【セ】経営指標を活用して、経営戦略会議で課題の共有・検討した他、診療科毎の目標を設定して病院長ミーティングで実績を示しながら、目標達成の方策等について意見交換を行った。

③【附・セ】附属2病院の医薬品と試薬の合同入札や、診療材料の共通化の推進	③【附・セ】医薬品・試薬の合同入札を実施した。附属2病院で診療材料の共同購入、共通化を推進した。
④【附・セ】附属2病院間人事交流、附属2病院と医学部の連携強化の推進（＊中期）	④【医学部】 ・地域医療支援に関する課題の把握・検討を行うための地域医療支援センター設置に向けた準備と関係課の調整、プレ会議を実施した。 ・離職者・卒業生など貴重な人的資源を活用する YCU 看護アルムナイ・ネットワーク構築に向けた準備、看護学科と看護部間の調整を図った。 ・大学院、附属2病院が連携し、学位未取得の病院助教に対し、博士学位を取得するよう学内通達を取りまとめた。大学院の進学及び博士学位取得に向けた取組を推進した。 【附・セ】 ・看護師（附・セ各9名）の人事交流を9月から6ヶ月間実施した。 ・薬剤師レジデント（附2名/セ3名）の人事交流を1月から1ヶ月間単位で実施した。 ・YCU病院事務職員基礎研修にて9月に病院経営シミュレーションを実施し、10月に病院経営改革案を発表、12月には附属2病院長にプレゼンテーションを実施した。

特記事項
・【附】医学管理料約3,400万円増、麻酔管理料約2,000万円増、【セ】救急医療管理加算9,800万円増・入退院支援加算4,100万円増により、経営改善につなげた。 ・【附・セ】経営指標を活用し、診療科ごとの目標を設定し、病院長のマネジメントのもと経営改善に向けた検討を行った。 ・【附・セ】看護師や薬剤師レジデントの人事交流を実施した。 これらの実績からA評価とした。

IV 法人経営

7 医学部・病院等再整備事業を見据えた取組の推進

中期計画	【40】医学部・病院等再整備の検討	自己評価	B
------	-------------------	------	---

医学部・附属2病院等については、狭あい化・老朽化による課題を抜本的に解決し、医療を取り巻く環境の変化に対応しつつ、将来にわたり市民の健康と命を支える「最後の砦」としての存在であり続ける必要がある。あわせて、教育・研究・診療機能の一体整備による新たなイノベーションの創出、地域貢献の強化等も図るため、横浜市と連携しながら事業を推進し、新医学部・病院等が目指す姿や備える機能の検討を検討し、実施計画の策定などを進める。

【主な指標】◆実施計画の策定など再整備に向けた検討の準備

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①再整備事業全般に関する市との調整	①浦舟地区に整備する新病院の事業規模等について、市と共に検討を行った。
②再整備候補地の見直しに伴う基本計画の調整・検討	②再整備候補地の見直しに伴い、教育・研究機能のあり方等について内容の更新を図り、基本計画（事業規模等を除く）の市大案をとりまとめた。

特記事項

建築コストの上昇など不確定要素が多い状況の中、再整備の実現に向けて検討すべき課題が多岐に渡ることから、全体スケジュールへの影響を抑えつつ、令和7年3月に予定していた基本計画案の策定を、令和7年11月まで延長した。

IV 法人経営

8 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり

中期計画	【41】環境へ配慮したキャンパスづくり	自己評価	B
------	---------------------	------	---

カーボンニュートラルをはじめとする社会的要請への実現にあたり、建物のZ E B化を検討し、エネルギー効率を踏まえた計画的なメンテナンスを行うことで、長寿命化計画を推進する。特に、温室効果ガス排出量の抑制と電気使用量削減のため、照明のL E D化や空調機器の更新を行う。

【主な指標】◆長寿命化計画に基づくメンテナンスの実施

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①長寿命化計画に基づくメンテナンスの実施（＊中期）	①計画に基づき本校舎西棟空調更新工事に向け設計を実施した。
②金沢八景キャンパスの総合研究教育棟のZ E B化 ¹⁸ の検討	②総合研究教育棟の設備機器の省エネについて検討した。
定量的指標	
③金沢八景キャンパス総合体育館のL E D化 10%/年	③総合体育館 50%、YCU スクエア 100%

¹⁸ ZEB（Net Zero Energy Building）：快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと

IV 法人経営

8 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり

中期計画	【42】 交流を意識したキャンパスの充実	自己評価	B
------	----------------------	------	---

金沢八景キャンパスでは、第3期中期計画で策定したキャンパスマスタープランに基づき、イノベーション・コモンズ（共創拠点）に資する「交流の場」整備を計画的に進める。福浦キャンパスでは、狭あい化対策の検討を進めるとともに、学生の教育環境充実や研究の促進等を図る。

また、優秀な外国人留学生を獲得し、教育・研究の充実及びキャンパスの国際化を推進するため、国際混住型留学生宿舍の検討を進め、外国人留学生と日本人学生等が共に生活し、学び合う環境を作り、多文化共生を推進する

【主な指標】 ◆交流・共創を推進する施設機能の整備

令和6年度計画（指標）	令和6年度実績
定性的指標	
①交流・共創を推進する施設機能の整備に向けた調整（Ⅶグ）（＊中期）	①交流・共創拠点の環境整備に向けた検討、調整を行った。
②フリースペース整備計画と総合研究教育棟の大規模改修との調整	②フリースペース整備に向けたスケジュールの調整を行った。
③安定的な国際混在型宿舍の確保と交換留学生への提供（Ⅶグ）	③交換留学生宿舍希望者入居率：100% （後期交換留学生受入数増加に伴い、関東学院大学との契約室数を8室増室）
④交換留学生と本学学生との交流機会の創出（Ⅶグ）	④・交換留学生宿舍へRA（レジデンスアシスタント）配置を開始し、日本人学生と交換留学生の交流が深まった。 ・交換留学生数大幅増加に伴い、チューター（学生ボランティア）人数を増やし交流を拡充した。チューターから紹介された友人、部活やサークル等を通して、幅広く日本人学生との交流が可能となった。 ・昨年に続き交換留学生に母校紹介をしてもらった。

V 自己点検及び評価

中期計画	【43】 計画の浸透と適切かつ効果的な自己点検・評価の実施及び情報公開	自己評価	B
------	-------------------------------------	------	---

中期計画の着実な達成に向けて全教職員に広く浸透するよう周知を徹底する。あわせて、客観的なデータに基づく自己点検・評価を定期的の実施し第三者評価を受けることで、法人の課題を洗い出し、その課題の解決を継続的に進める。さらに、多様なステークホルダーに向けて法人の基本情報や教育・研究成果等の情報公開を促進する。

【主な指標】 ◆第三者評価の受審及び課題等への継続的な対応

令和 6 年度計画（指標）	令和 6 年度実績
定性的指標	
①第三者評価の受審及び課題等への継続的な対応（＊中期）	①計画どおり実施した。
②年度計画の自己点検・評価の実施及び教職員への情報共有	②計画どおり実施した。
③法人基本情報や教育・研究成果等の情報公開	③法人データの収集と学外に向けた公開を行った。

VI 地域貢献（横断的項目）

【8】【9】【10】【11】【12】【14】【19】【21】【23】【24】【25】【35】【38】 各項目の実績のとおり

VII グローバル展開（横断的項目）

【2】【9】【10】【12】【14】【22】【36】【42】 各項目の実績のとおり